

オーケストラ・コンサート情報満載!

38 ORCHESTRAS

日本オーケストラ連盟ニュース

加盟オーケストラ コンサート情報 2022年12月~2023年3月
~コンサート津々浦々~



Vol.109

2022年12~2023年3月

Orchestra
Asia Week
2022



アジア

オーケストラ ウィーク



Contents

アジア オーケストラ ウィーク2022	2
インタビュー:アジアで活躍する仲間たち	4
[新聞記者の目]	
文化庁の京都移転が意味するものとは	6
「ペルナンブコ」って知っていますか?	7
News&Topics	8
リレーエッセイ	9
コンサート津々浦々	10
インフォメーション	20

Asia Week 2022

アジア オーケストラ ウィーク

シンフォニーを一緒に

10.5 wed. 10.6 thu. 10.7 fri.

東京オペラシティコンサートホール 25th Anniversary
Tokyo Opera City Concert Hall

文：音楽ジャーナリスト 渡辺 和 写真：藤本史昭



琉球交響楽団

震災後からコロナ禍後へ

現在のような歴史記述がこの先も存在するならば、2020年春節頃からウクライナ戦争勃発までのまる2年間のコロナ禍は「100年前の第1次大戦にも等しい社会変革の契機」として記録されよう。人と人との交流を絶ち通信テクノロジーで埋めようとした過去に例のない壮大な社会実験は、明らかに世界を変革した。オーケストラもクラシック音楽も、当然ながら、コロナ前と同じでいられる筈がない。

2022年も文化庁芸術祭主催公演「アジア オーケストラ ウィーク(AOW)」は、3年ぶりに海外オーケストラを招聘し、東京オペラシティコンサートホールで開催された。10月5日の初日マニラ交響楽団開演を前に、長く暑すぎた夏

も流石に終わった夕方のオペラシティのあちこちでは、些か寒すぎるTOKYO2022と記された揃いのツアーTシャツの上に慌てて1枚羽織った団員らが、カフェで腹ごしらえをしコンビニの列に並んでいる。コンサートホールには日常の賑わいが戻り、秋の祭りも帰ってきた。

期せずして環太平洋圏をマニラ、那覇、ソウルとぐると北上する形となった今年のAOWだが、2011年のクライストチャーチ交響楽団と仙台フィルとの両大地震被災地オーケストラによる合同公演以降の恒例となっていた東北公演は、開催されない。復興五輪も終わり、「復興支援」が歴史のひとつ向こうのページに納まり、新しい時代が始まっている。

10.5 wed.

マニラ交響楽団 Manila Symphony Orchestra

- 指揮/マーロン・チェン
- チェロ/ダモダール・ダス・カスティージョ
- ルシオ・サン・ペドロ:ラヒン・カユマンガ
- エルガー:チェロ協奏曲 ホ短調 作品85
- プロコフィエフ:バレエ組曲「ロメオとジュリエット」
(マーロン・チェン セレクション)

アジアのルーツからの新たな風

アジアのクラシック音楽史、とりわけ19世紀後半以降列強の帝国主義侵出期の演奏史を紐解くと、スペイン統治下からアメリカ領となるフィリピンという島々が演奏家を各地に輩出してきた役割の重要さに気付かざるを得ない。

フェスティバル開幕を飾ったルシオ・サン・ペドロの交響詩《ラヒン・カユマンガ》は、そんな歴史をコンパクトに音で綴ったフィリピンの名刺のような作

品。何処も同じコロナ禍で演奏会はなく、今回の来日前におそろおそろ活動再開という状況のマニラ響だが、最後に高らかに鳴り響く馴染みの民衆歌に向け、すっかり体に入った音楽が楽しそうに奏でられる。

続いてチェロを抱え登場したダモダール・ダス・カスティージョは、ザルツブルクで学ぶティーンエイジャー。南国の情熱とはちょっと違う若い感性を披露したあと、フィリピンの名ジャズシンガーのフェイ・ミラビテの作品を弾きながら歌うという今時の欧州オシャレ系演奏家顔負けの鬼才ぶりを見せ、この国の演奏家の層の厚さを感じさせる。

台湾系指揮者マーロン・チェン監督自らが編集したプロコフィエフ《ロメオとジュリエット》は、しっとり歌い込む叙情的な場面を多く拾い、強烈なリズムの饗宴に終わらせない。

アンコールのルイ・オカンボ《君のための時間》では、コンサートマスターが立ち上がりリリリのソロを聴かせ、ポップスからシリアスまで高い水準でこなす職人芸を見せた。洋楽がしっかり社会に根付いているこの国の底力を、あらためて確認させてくれる晩となった。

指揮/マーロン・チェン

チェロ/ダモダール・ダス・カスティージョ



マニラ交響楽団



10.6
thu.

琉球交響楽団 Ryukyu Symphony Orchestra



指揮／大友直人

沖縄伝統音楽、琉球舞踊／沖芸大琉球芸能専攻OB会

ピアノ／萩原麻未

■中村 透：かぎやで風

～琉球古典音楽、古典舞踊とオーケストラのための～

■萩森英明／黄金の森で（沖縄本土復帰50周年に寄せて）
[琉球交響楽団委嘱新作]

■ラヴェル：ピアノ協奏曲 卜長調

■チャイコフスキー：交響曲第5番 ホ短調 作品64



指揮／大友直人



ピアノ／萩原麻未

品として創り上げた《かぎやで風》は、この伝統音楽本来の慶事の言祝ぎという目的で初台のステージを飾る。民族衣装に民俗楽器で参加した沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻OB会と共に、沖縄アンバサダーとしての役割に留まらず、21世紀ポストモダン創作のひとつのあり方を力強く提供する。

ポストモダンという意味では、団の委嘱で本土復帰半世紀に寄せて作曲された萩森英明の新作《黄金の森で》は、極めて興味深かった。沖縄復帰後の東京生まれ、東京藝大出身ながら所謂「現代音楽」の閉鎖された世界ではなく、ゲーム音楽などでも活躍する作曲家を敢えて起用。戦後前衛の難解さや自己撞着とは無縁に、通常編成のモダン-オーケストラの響きに沖縄自然賛歌を展開、今後の楽団にとっても貴重な楽譜となる。後半はラヴェルとチャイコフスキーで、「地方都市オーケストラ」としての実力を開示。沖縄だから出来ることと、沖縄でも出来ることを、東京の聴衆にじっくり聴かせた。

ローカルだから出来ることとローカルを越えること

実質上の環太平洋音楽祭日本代表は、本土復帰半世紀の沖縄から初登場の琉球交響楽団である。今世紀に入るや設立され、指揮者大友直人の献身的な尽力でプロとしての活動を続け地力を付けつつあるオーケストラがまず示したのは、独自の音楽芸術文化を持つ島としてのアイデンティティであった。

北海道に生まれ本土復帰直後から沖縄に移住、琉球大学で多くの人材を育てるばかりか、地域に根付いた公共文化ホール運営のプロデューサーとして日本中に知られた作曲家中村透が、沖縄伝統音楽及び舞踊と現代オーケストラのコラボをやっつけ仕事のイベントで終わらせない作

10.7
fri.

KBS交響楽団 KBS Symphony Orchestra

指揮／ユン・ハンギョル

ヴァイオリン／キム・ボムソリ

■ヨハン・シュトラウス2世：喜歌劇「こうもり」序曲

■ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲 第1番 卜短調 作品26

■ユン・イサン：交響曲第2番

生まれ変わった老舗

復活AOWの最後を飾ったのは、今や東京と並ぶ東アジア地域クラシック音楽中心地ソウルの老舗、KBS響久々の登場である。前回の来演からの15年の間に、後に大統領となる李ソウル市長の肝煎りで世界的指揮者チョン・ミュンフンを招き団員と組織を総入れ替えたソウル市響が、ソウルフィルとして世界的オーケストラとなる活躍ぶりを横目で見ていた老舗が、全く生まれ変わった団体として再登場である。団員はソウルフィル同様に若く「弾ける」女性弦楽器奏者ばかり、かつての重厚なオジサン軍団の影すらないフレッシュで機能的な、現在の在京オーケストラ同様の世界トップクラスのヴィルトゥオーゾ集団である。

指揮台に上がるのも、まだ28歳でドイツの劇場などで活動を始めたばかりのユン・ハンギョル。韓国人音楽家の世界進出が話題になった今世



指揮／ユン・ハンギョル



ヴァイオリン／キム・ボムソリ



紀初頭世代の後、平和な経済大国で育った若者である。劇場を良く知るポイントを押さえた《こうもり序曲》で始まった演奏会、続くブルッフの独奏は日本でも仙台コンクールでお馴染みのこの国が生んだ最も若いヴァイオリンのスター、キム・ボムソリが美音を振り撒く。そして、この演奏会のみならず今年のAOWのハイライトとなったのが、ユン・イサン交響曲第2番である。指揮者から団員まで、ほぼ全てがこの作曲家の背負った苦悩を歴史としてしか知らない新世代に抱える純粋に音楽的な再現で、この韓国人が池内門下から戦後西側前衛を経て辿り付いた極めて独特にして普遍的な響きの世界を、理想的に描き出す。21世紀の韓国オーケストラと指揮者にとって、ユン・イサンという作曲家の存在が貴重な財産となり得ると宣言する名演となった。

主催：文化庁芸術祭執行委員会

共催：日本経済新聞社

特別協賛：新菱冷熱工業株式会社

協力：東京オペラシティコンサートホール 日本航空 日本旅行

制作：公益社団法人日本オーケストラ連盟

アジアで活躍する仲間たち

マニラ交響楽団(フィリピン)
& KBS 交響楽団(韓国)

SHIHO TAKASHIMA

© Satoshi Toyoshima

高嶋 志歩さん
(ヴァイオリン奏者)

山梨大学教育人間科学部卒業。

2011年からドイツへ1年交換留学。2012年再度渡独し、vbw-Festivalorchesterに参加し、ミッシェル・マイスキート共演。2015年、山梨でレオン・シュピラーと協奏曲で共演。2017、18年にアジア・ユース・オーケストラに参加。コンサートミストレスを務める。2017年のワールドツアーでは、S. チャン、V. レービン、G. オピッツと共演。中国、台湾、日本、米国、イタリア、フランス、ドイツほか全20公演。アジア11ヵ国から集まったメンバーで演奏。2018年よりフィリピンにて演奏活動をしている。使用楽器は、2005年父親製作のヴァイオリン。

高嶋志歩さんは今回のマニラ交響楽団にはエキストラとして加わっていただきました。どのような経緯で、フィリピンでの演奏活動をされるようになったかお聞かせいただけますか？

山梨県山梨市出身で、幼い頃からオーケストラで演奏することが夢で、様々なオーケストラで演奏する機会がありました。山梨大学教育学部に進学し、音楽の教員免許を取得しましたが、小さな頃から音楽活動をしていたので、演奏でもう少し頑張りたいという気持ちがあり卒業してからも音楽を続けました。

転機となったのは2017年、大学4年生の夏に参加したアジアユースオーケストラ(AYO)です。オーディションを受けるまではこの存在を知りませんでしたが、ワールドツアーを開催することをTwitterで知り、日本でオーディションを受けました。合格すると全額奨学金を受けて参加できるこ

とが大きなポイントでした。リハーサルは香港で3週間、朝9時から夕方6時まで行いました。英語でコミュニケーションを取り、1カ月で10か国、計20公演ほどアジアの11か国の仲間たちと過ごしました。

その後、フィリピンのメンバーとの親交が始まり、2018年からフィリピンに本格的に行くようになりました。行ったことのない国に行ってみたく思っていたのでフィリピンに渡ることに迷いはなく、フィリピンに行く事を家族に伝えたときには驚いていたものの「チャンスがあるならやってみたら」と言ってくれました。縁があって、2020年フィリピン・フィルハーモニック管弦楽団(PPO)に入団することが決まりましたが、残念なことに、世界中の新型コロナ感染拡大により入団は白紙になってしまいました。今回はマニラ交響楽団(MSO)に招待していただきました。

提供/マニラ交響楽団 写真/Mary Jazmin Tabuena
マニラ交響楽団で演奏する高嶋さん(右端)

フィリピンのオーケストラ事情、活動状況は？

今回お世話になっているMSOは1926年創立のフィリピンでは最も古いオーケストラです。8月～1月にかけて行われる年5回のシーズンコンサート(年によっては6月)、依頼コンサートなどがあります。オーケストラのメンバーは、20代～60代と幅広い年齢層で構成されています。マニラ交響楽団にはジュニアオーケストラもあり、若手の育成を積極的に行っています。

他に、PPO(1973年創立の国立オケ。2018年AOWで来日)があります。PPOでは月に1回のシーズンコンサートが9月～4月にわたり開催されます。年に8回くらいです。その他に依頼公演やアウトリーチがあります。仲間たちの中には広島のエリザベト音楽大学で学んだ人もいて、日本語を話せる人も意外と多いです。

もう一つ、1998年創立のマニラ・フィルハーモニック管弦楽団(MPO、2013年AOWで来日)があります。クラシックコンサートやポップコンサート、ウェディングやイベントなど様々な場面でコンサートをこなしています。

マニラでの生活は？

家族や友達を大切にしている国民性なので、仲間ができれば楽しく過ごすことができます。ただ、

治安はあまり良くないので、時間帯や場所に気をつける必要があります。夜は1人では歩けないので仲間と一緒に帰っています。また、水道水は飲料に適しません。食事は油分が多いので、食べ過ぎると胃もたれますので注意が必要です。物価は日本の半分以下だと思います。2017年のAYOで、スペインを訪れましたが、それを思わせるような街並みもあり、アジアとヨーロッパを融合した素晴らしい街だと思います。

フィリピンの方々は明るい国民性でコミュニケーションもとても取りやすいです。音楽面にもそれは表れていて、明るい音、情熱的な音になるので一緒に演奏をしていてとても刺激を受けます。また、日本よりも一般市民にとってクラシックは距離のある音楽ではありません。音楽活動をしていなくても行ってみよう、と気軽に足を運んでくれます。フィリピンという国、そしてフィリピンの人柄が好きなので長く滞在したいと思っています。

MSO以外での音楽活動、また今後の活動は？

PPO、MPOにて演奏活動をしています。また、オンラインセッション、オンラインレッスンなどもしています。日本では地元山梨でのオーケストラへの参加です。実は新型コロナ感染の収束に伴い、今年の12月にフィリピンへ行き、改めてPPOに入団することが決まっています。インターネットを利用した音楽活動も視野に入れています。

<https://shihotakashima.com/>

アジアのオーケストラにチャレンジする
後輩たちへアドバイスがあれば

現時点ではまだまだ発展途上ではありますが、日本の少子高齢化と異なり、若者が多いので、今後の可能性が大いにあると思います。アジアは、英語でのコミュニケーションが可能なので、英会話力の向上に努めると良いと思います。演奏技術の向上や曲のレパートリーを増やしておくことも大事ですが、それ以上に自信を持って演奏することが重要だと思います。その自信が自分の音にも表れます。また、同じセクションだけでなく他のパートの方々との交流を大切にしてほしいです。まずは現地へ飛び込んで体験していくことが何よりの近道だと思います。

提供/マニラ交響楽団 写真/Mary Jazmin Tabuena
アジアオーケストラウィーク2022(10/5)のリハーサル後

アジア オーケストラ ウィークが始まったのが2002年。この20年の間に、明らかにアジアで活動する仲間たちは増えてきた。国が経済的に発展すると文化芸術活動も盛んになり、人々

の暮らし方も変わっていく。私たち日本人にとって、アジアのオーケストラから目が離せない時代が来ている。そこで活動している2人の仲間の生の声をお届けします。

チューバ奏者となるまでは？

東京都中央区人形町に生まれ。中学校・高校と吹奏楽に熱中。東京音楽大学に進学しました。個人レッスンを受けたのは受験前が初めてでした。卒業後はオーディションを受けつつ、7～8年フリーランスとしての仕事をしていました。

KBS 交響楽団 入団の経緯は？

2017年の春に「musicalchairs」でオーディション情報を見つけて、受けに行きました。韓国にはコンクールで行ったことはありませんが、オーケストラに関する事前知識も全くありませんでした。もちろん情報収集はしましたが、何よりもとりあえず行ってみようかなと。韓国語も話せないし、留学経験もないので英語も話せない状態のまま行きました。

オーディションは楽団のお世話になり無事こなすことができました。KBS 響(KBSSO)の場合は通常、書類選考の後にライブオーディションで音楽監督、コンサートマスターなど3人くらいの前で演奏します。その次にセクションに入って、合格したらオーケストラに入ってみてエキストラ経験をのちトライアル期間に入ります。しかし私の場合は、最初のライブオーディションで1人に絞ってもらえたのでその先、1年間のトライアルが始まりました。

韓国のオーケストラの活動状況は？

KBSSOの場合は定期演奏会が月に1回くらいあり、その他に企画される公演もあるので大体1週間に1、2回本番があるイメージです。年間70回くらい。

ソウルには東京と同じでたくさんのオーケストラがありますが、KBSSOとソウル・フィルハーモニック管弦楽団(SPO、2004年AOWで来日)と韓国国立交響楽団(KNSO2006年AOWで来日)の3楽団が主な楽団です。本拠地はKBSホールで、定期公演はソウルアーツセンター(芸術の殿堂)で行います。他の主要なオーケストラもその場所で演奏することが多いです。4月に韓国中のオーケストラがそこに集まって演奏会を開催しますが、とても壮観で面白いです。韓国のみなさんはプライドが高い部分があって、地方都市のオーケストラも一挙にソウルに集まるので、他のオーケストラに負けられないと気合が入ります。公演の2か月前から練習する気合の入れぶりです。

KBS 交響楽団の特徴は？

日本のNHK 交響楽団に近いイメージで、演奏会はだいたいテレビ放映されますし、リハーサル室もテレビ局内にあります。

日本のオーケストラは何か演奏のトラブルがあっても崩れない最低限の線があって正しいリ

ズムや正しい音程があると思うのですが、韓国のオーケストラはそういったものより、自分の気持ちが優先なので時には空中分解で終わることもあります。ライブ演奏の醍醐味を感じます。何が起こるか分からない、逆に「何でこんなに良い演奏なるのだろう」と思う瞬間もあるので、体力的には疲れますがとても楽しいです。KNSOは劇場付きのオーケストラなのでオペラやバレエ公演を一手に引き受けます。SPOはチョン・ミュンフンが大改革をしたソウルで一番のオーケストラです。KBSSOは放送響という歴史があるのが特徴です。それぞれライバルではありますがコロナ禍で欠員が出たらお互い助けに行くなど交流はあります。

楽団以外の音楽活動は、KBSSOは他のオーケストラに比べて拘束されません。ソウル以外のオーケストラは地方公務員のようなものです。給料は保証されていますが、演奏会が少なく、出番も少ない場合、その他の日程は地方公務員としての責務が果たされなければならない。つまり、団外での活動は制限されることになります。

外国人の楽団員は打楽器のアメリカ人と私の2人だけです。オーディションには外国の方もコンスタントに受けに来るようです。

韓国での生活は？

日韓関係が一番悪い時期を経験していますがその中で被害を被ったことはなかったですし、韓国語を話せなくても日本語が街中にあふれているのでとても住みやすいです。

韓国の人は何に対しても感情が激しいのでオーケストラでもお客さんの反応が日本とは違い、韓国で奏者をやっていて良かったと思います。楽章間で「ブラボー！」と声が上がったこともあって、うれしかったです。



演奏中の臼井さん(右)、トロンボーン奏者は奥様の南城友恵さん(ウルサン響首席)

アジアのオーケストラにチャレンジする

後輩たちへアドバイスがあれば

オーディションを受けるにあたって、これまで関わりのなかった国でもとりあえず1回行って受けてみるのが良いと思います。日本のオーケストラは歴史が古く成熟しているのでエキストラに参加しても優れた奏者の肩を借りるつもりで頑張れば仕事はできますが、アジアの場合地域によっては



臼井 紀人さん

(KBS 交響楽団 チューバ奏者)

東京都出身。東京音楽大学卒業。サントリーホール主催「レインボウ21・サントリーホールデビューコンサート」出演。2011年サイトウキネン室内楽勉強会に参加。サイトウキネンフェスティバル in 松本「青少年のためのオペラ」に出演。第7回チェジュ国際金管・打楽器コンクール(韓国)ファイナリスト。第10回ルーマニア国際音楽コンクール第2位。シンガポール低音金管楽器フェスティバル2016ソロコンクール第3位。これまでにチューバを田中真輔、大塚哲也の各氏に師事。2017年よりKBS 交響楽団チューバ奏者。

まだ発展途上なので、みんなが追いつけ追い越せと、とてもエネルギーを持って参加しています。これは日本では体験できない刺激になると思います。ただ、怪しい求人もあるので、オーディションを受けるときに契約書に不当条件がないかどうかチェックの方が良いと思います。韓国の方々は日本のオーケストラのことを知ってくれていてリスペクトしてライバル意識も持ってくれています。

韓国で活躍する日本人が少ないのもっと来てほしいです。楽器を持って一人で海外に行って現地の人と話せなくてもなんとかするしかないという経験は音楽以外では出来ない経験になると思います。今も私は韓国語ができないのですが、数字と最低限の単語だけは覚えて頑張っています。ソウルという街とオーケストラのみなさんが親切なのでとても助けられています。

インタビュー：桑原 浩

文化庁の京都移転が意味するものとは

斎藤 英之 (京都新聞社文化部 編集委員)

移転に暗雲?

原稿執筆の依頼を受けた10月19日夕、「文化庁 春移転に暗雲 宗務課」という一報が、東京支社から飛び込んできた。

東京一極集中是正の一環として、文化庁が来年3月、京都に移転する。6年前に決定されていた移転に「暗雲」が立ちこめた原因は、今秋の国会論戦で焦点となった世界平和統一家庭連合(旧統一教会)問題だった。教会に対して、解散命令請求も視野に入れた「報告徴収・質問権」の初の行使に向けて、今後も長期にわたって激務が予想される宗務課の全面移転が難しく、延期もありえることを参院質疑の原稿が伝えていた。

文化庁の京都移転は、「首都の東京は政治と経済、古都の京都には国柄の根幹をなす文化、二つの軸で国民生活を豊かにする」という国家戦略が、掲げられた大義のほずである。しかしながら、支援を伴う文化行政に限ってみれば、時の社会情勢にほんろうされ、「政治、経済の繁栄もしくは安定があってこそ文化が花開く」という歴史教科書的な論理を逆説的に露呈することになった。政治経済の影響は何も、宗教に限った話でないことは、クラシック音楽をはじめとする芸術の世界史を少しなぞってみるだけでも分かる。

文化庁によると、正規職員の約6割、非常勤を含めた全体では約7割にあたる職員が京都で勤務するという(京都新聞9月30日付朝刊)。芸術活動の基盤強化も担う文化経済・国際課の拠点は東京に残るが、予算の調整を担う政策課や文化財関連は移転対象となる。

京都の受けとめ

移転先となる京都や関西はどう受けとめているのか。長年、京都移転を率先して国に求めていた府や市などの自治体はもちろん、

数多くの国宝や重要文化財を所有する社寺や祭事、それらを資源とする観光業界、経済団体も機運を盛り上げている。国際文化観光都市としての「格」が上がる経済効果も視野に入れている。

主だった流派の家元が京都を拠点としている茶道や華道、さらに西陣織などの工芸、先日祖母と父に並び三代続けて日本画家として文化勲章を受章した上村淳之氏に代表される美術界からもおおむね好意的に受けとめられているようだ。

芸能では、京都や上方の文化が色濃く残る日本舞踊や能狂言、花街、伝統邦楽といった分野も同様だろう。クラシック音楽界は、国内の他都市と比べて独自色が際立ちにくく、歴史的優位性にも乏しいため、どれだけ移転のメリットを享受できるか微妙なところだが、より身近になる情報発信、収集の拠点を今後に生かさぬ手はないだろう。

政治、経済とは切り離せない

冒頭で事例を紹介したが、文化行政、支援のありようは、時の政治、経済情勢に大きく左右される。

国内で唯一、自治体直営オーケストラとして1956年に誕生した京都市交響楽団(京響)も例に漏れない。長年、助成金や営業収入に頼らず演奏活動ができる特別な存在だったが、市の財政難により、2009年に運営を市財団に移管した。

ただし、その改革は楽団員の身分を保障し、人件費相当を市が補助金として拠出するソフトランディングだったこともあり、財団の良さを生かした経営効率化と楽員の危機意識の高まり、さらに移管の前年に常任指揮者に就任した広上淳一氏の指導力も奏功して、自主公演の集客数が増え、演奏評価も年々高まった。

歴代最長の14年間、京響を率いた広上氏



文化庁の移転先となる旧京都府警察本部(手前)と新築の行政棟

が常任を退任した今も、楽員たちは有志で室内楽の演奏会を積極的に開くなど、演奏力向上への意欲は絶えない。来年度から、プロオーケストラの「看板指揮者」としては国内最年少クラスとなる30代半ばの沖澤のどか氏が常任に就くことも決まり、移管前から断続的ではあるが京響を取材してきた私を含め、関係者の期待も高まっている。

ただし、京響を支えてきた市の財政運営は、同規模の政令指定都市と比べても厳しさを増している。将来、地元経済がさらに疲弊し、市民の多くが生活に困窮することになれば、時の政治状況によって、自他ともに認める国際文化都市のあるべき聖域にメスが入る可能性もあると感じている。前回のような幸運はあまり期待できない。

京都には、若かりし頃ピアニスト志望だった故・佐藤研一郎氏が創業し本社を置く半導体企業のロームが財団を通じ、音楽家の育成を中心に長年、多大な支援に取り組んでいる。

また、京セラを創業した故・稲盛和夫氏が設立した財団は今年から、京響とコラボして11月3日「文化の日」を中心に演奏会や学生指導などを行う音楽の振興企画を立ち上げた。先端技術分野では、今や老舗ともいえる両社に続く、世界的な新興企業が京都に近年現れていないのが気がかりだが、音楽文化を支える土壌は都市の経済、成長力に大きく依拠しているとつくづく感じている。

「ペルナンブコ」って 知っていますか？

日本オーケストラ連盟 専務理事 桑原 浩

話題のブラジル大統領選、ボルソナロ前大統領とルナ元大統領の戦いはルナ氏に軍配が上がった。そのルナ氏が生まれた土地がペルナンブコ州。ここで話題にするのはそのペルナンブコ州を含むブラジル北東部の大西洋岸熱帯雨林地方にのみ分布するマメ科の木で別名ブラジルボクの話。16世紀ポルトガルの植民地時代、非常に美しい赤色の染料として珍重されてきたものです。

その後18世紀には弦楽器の弓には欠かせない重要な材料として利用され、今日に至っています。その木が、南米における他の木材と同じように伐採が進み、絶滅の恐れがある動植物の一つとなっています。

オーケストラの楽器を支える 多くの自然界からの贈り物

私たちオーケストラが使用している多くの楽器も含め、伝統的、民族的にも活躍している美しい音を発生させる多くの楽器は、自然界の存在する多くの動植物の一部をその材料としてきています。今回のペルナンブコと同様に、環境問題の見地より、それらの利用に多くの規制（原材料の入手、原材料・完成品の流通、所持している演奏家も持ち運びなど）がかかってきたものは多数あります。最も印象が強かったのが「象牙」。象牙はピアノの鍵盤はもとより、三味線の撥、箏などの和楽器、その他リコーダーやトラヴェルソといった管楽器、二胡などの中国の楽器などに多く使われ（装飾的な部分もありますが）、取引は厳しく制限され、代用品の開発と利用など数々工夫対応をしながら現在を迎えています。そのほかマリンバなどの打楽器の音板ほかに用いられるブラジリアン・ローズウッド、クラリネット、オーボエ、ピッコロなどの胴部に用いられるグラナディアなど多くの自然界の資源が環境問題との間で共存の可能性を模索しています。また日本国内に目を向けると雅楽の楽器の箏（ひちりき）のリード部分の原材料は、平安時代より大阪・高

槻市の淀川河川敷、鶴殿（鶴殿）ヨシ原のヨシを使用してきたようですが、新たな道路工事が計画されておりそれらを守るための運動も起きているようです。

ペルナンブコの 具体的な現実問題は

ペルナンブコは現状においても2007年に絶滅の恐れのある動植物の国際取引を規制するワシントン条約の「付属書Ⅱ」に分類され、国際取引には、輸出国による輸出許可書が必要になっています。現状でもその入手には多くの関係者がかなりの苦勞をされているのが現実です。それに加え、ブラジル政府はこの11月にパナマで開催されるワシントン条約の締結国会議に向けて最も厳しい「付属書Ⅰ」への格上げする案を提出しています。

もし、その案が可決されるとどのようなことが想定されるか。弓制作者は現在（「付属書Ⅱ」において）、原材料の輸入には許可（現状でも困難）は必要ですが、完成した弓を国際的に取引することは出来ます。演奏家も国際的移動の際に特別な許可は必要とされません。これが「付属書Ⅰ」が適用されれば、弓制作者は2007年以前に制作されたもの（証明できるもの）の取引のみが許可され、それ以降のものについては厳しい輸出入の許可の対象になります。海外ツアーの際、オーケストラあるいは個人演奏家は2007年以前に作られたことを証明する楽器証明書といったものが必要となり、実質的にそろえることが困難な書類の作成を含む、極めて大変な事務手続きが要求されることが考えられます。書類が不適切だと没収される可能性もあるでしょう。

ペルナンブコはどうなるのか？

今回ペルナンブコ問題を取り上げたのは、多くの方に改めて認識していただき、将来の楽器（ここでは主に弦楽器の弓）をどのように考えていくべきか。それらを議論するための出発点



になっていただくためのものです。

たとえば、

- ☆「芸術文化の伝統を守るため」という理由だけで、極めて貴重な資源を利用し続けることが、地球温暖化が問題視されている社会全体に受け入れられるか？
- ☆本当に問題視されるほど伐採が進んでしまっている事実の数量的な把握は出来ているのか？
- ☆自然林を伐採するだけでなく、現地で、あるいは別の土地でペルナンブコを持続的に育てることは出来ないのか？（現在植林活動の取り組みはなされていますが、材料として使用できるまでには80年の年月が必要と言われています）
- ☆そもそも伐採が進んでしまっているのは「象牙」などと同様、非合法的に伐採している人たちの存在が大きな原因で、それを取り締まるのが早急の課題ではないか？
- ☆他の自然界からの恩恵を受けている資源同様、同等の質のものを新たな材料で作り上げることは出来ないか？

SDGsが叫ばれる今日、ペルナンブコに限らず、自然界の作り出す限られた資源を利用して私たちがオーケストラの活動が持続可能な環境を整えるべく、さまざまな視点に立って議論し、進むべき道を模索しなければなりません。

私の立場でこの問題を認識したのが最近であることは恥じなければなりません。まずは同じ世界で活動する人たち、その音楽を聴いていただいている皆さんとこの問題を共有することが必要と考えます。

令和5年度文化庁概算要求

令和5年度文化庁概算要求の内容が発表された。全体の概算要求額は本年度の予算と比較して274億円の増額(25.5%増)の1,350億円となっている。ちなみに昨年度の令和4年度の文化庁概算要求はその前年度に比べて236億円の増額(22.0%増)であったのと比べるとほぼ同水準の要求になっている。ただし令和5年度の要求にあたっては昨年度同様に本予算以外に、事項要求が出されている。その規模は1,000億規模となっている。令和5年度の概算要求と並行して検討されている令和4年度の補正予算の規模と合わせて注目しなければならない。補正予算はあくまで補正予算であり、私たちの活動を継続的にやっていくことを重視すれば通常の本予算の内容も含め、どこまで確保できるかが重要である。また、令和5年度の概算要求にあたっては、項目が大きく組み換えられ、予算上の項目名も変わっているために、単純な比較が困難になっている。

オーケストラにとって重要な助成項目については以下のようにになっている。

(1) これまでの「舞台芸術創造活動活性化事業」は大項目の「舞台芸術等総合支援事業」の中の〈我が国を代表する芸術団体等支援〉と〈創造団体等向け支援〉の中に割り振られており、詳細な金額の比較ができる情報は提示されていないが、金額・事業規模ともにほぼ今年度と同様と推測できる。ここで注視しておくべきことは、日本芸術文化振興会による助成金が年々減少してきており(基金の運用益が減って

いるため)、そちらへ申請していた団体の多くが〈創造団体等向け支援〉に変更することが予想され、各団体の助成額が平均して減少することが予想されること。

また、次項に示すように、本事業(「舞台芸術等総合支援事業」)の中に今年まで「文化芸術による子供育成推進事業」の中にあつた「巡回公演事業」、「芸術家の派遣事業」が含まれている。

(2) 前記したように「文化芸術による子供育成推進事業」の中から、私たちオーケストラに該当する部分はほぼ移動しているが、「文化施設等活用事業」は元の枠に残っている。少子化していく中で、オーケストラが学校訪問をする「巡回公演」の経済的な効率が悪くなっていると考えられる傾向も出てきており、その点、施設に子供を集めての本事業は有効で、今後重視されていくことになると思われる。令和5年度の概算要求では予定されている公演件数は、「巡回公演」が子供育成推進と山間・へき地など巡回公演をあわせ4,410(百万円)計上されている。令和4年度予算では4,920(百万円)。概算要求での公演数は1,876公演、令和4年度予算での1,950公演に比べ若干減少している。公演回数がほぼ同じであっても、予算が減少すれば1公演あたりの単価が下がり、他分野に比べて単価が高いオーケストラの公演件数が減る不安は否めない。この数値に関しては注視していきたい。

(3) 今年度より、「舞台芸術等総合支援事

業」の中に新規として〈全国キャラバン〉の予算が計上されている。これは令和2年度、3年度と補正予算において継続的に行われてきた事業が、その成果を踏まえ本予算に組み込まれたもの。予算は1,850(百万円)。令和3年度の補正予算の約1/3になっている。

(4) 令和4年度まで行われている「戦略的芸術文化創造推進事業」は令和5年度の概算要求からは削除された。この分野については令和5年度から新たに計上されている〈全国キャラバン〉(「舞台芸術等総合支援事業」内)の予算を活用する必要があると考えられる。

(5) 〈国際芸術交流支援事業〉はコロナ禍において活用されなかったことも原因であろうことは予想できるが、令和5年度の概算要求では、前年度の約3/4の362(百万円)になっている。アフターコロナを考え、文化芸術の国際交流も再開の兆しが見えている中、不安を感じる。

(6) 「障害者等による文化芸術活動推進事業」は今年度の予算391(百万円)に比べ120(百万円)増の511(百万円)になっている。障害者等による文化芸術の鑑賞機会の拡大、発表機会の確保などについて先導的・試行的な取り組みを支援するもの。

(7) これまであった「劇場・音楽堂等活性化事業」は令和5年度の概算要求では「舞台芸術等総合支援事業」の中の〈我が国を代表する芸術団体支援〉、〈創造団体等向け支援〉に割り振られている。

「フェスタサマーミュージア KAWASAKI 2022」の開催

7月23日(土)から8月11日(木)にわたり、18回目の「フェスタサマーミュージア KAWASAKI 2022」が開催された。「フェスタサマーミュージア KAWASAKI」はコロナ禍の中3年にわたって、中止すること無く継続して開催してきた。中止公演が相次ぐ中、多くのクラシックファン、オーケストラを中心とした演奏家にとっても大変ありがたい事であり、励みになった。コロナの影響とはいえ、新たに配信も本格的に行い「フェスタ」は新たなステージに入った。ジョナサン・ノット指揮による東京交響楽団による20世紀の「ジャズとダンス」によって始まった音楽祭は、最終日の原田慶太楼指揮による「シェイクスピアと映画」をフューチャーした演奏会まで、首都圏の9のプロフェッショナル・オーケストラ、地方より大阪フィルハーモニー交響楽団、地元川崎の

2つの音楽大学のオーケストラなどにより、計15回のオーケストラ・コンサートが開催された。いくつかの演奏会は売り切れとなり大盛況の公演となった。

その他のジャズ、ピアノ、オルガンの公演、ピアニストの小川典子さんによる「こどもフェスタ」などが開催された。コロナ禍の中、2020、21年と入場者はそれ以前に比べ大幅に減少していたが、今年は総入場者数が約2万人となり、コロナ以前に戻る兆しを感じる事が出来た。



オープニングを飾ったノット指揮 東京交響楽団

「アフィニス夏の音楽祭2022」の開催

3年ぶりに海外から講師の方が来日され、本来の形での開催となった。コロナ禍という事で市民の皆さんの出演、聴衆に集まっていたことなどまだ課題は残るもの、実際に人と人が触れ合えるかたちでのレッスンなどは大切なものと改めて認識できた。

長野県飯田市で始まり、2009年以降広島と山形で交互に開催されてきた「アフィニス夏の音楽祭」が今年新潟県の長岡市で、音楽監督川崎洋介さんのもと開催された。8月21日(日)から28日(日)の8日間、長岡リリックホール・コンサートホールを中心に、長岡駅前にあるアオーレ長岡などの施設も使用してコンサートなどが行われた。21日はオープニングセレモニー、22日から25日はセミナー、ワークショップ、26日から28日は室内楽演奏会を中心としたコンサートが開催された。室内楽コンサートは、ロマン派の名曲、また現代の新作もあり、

幅広い音楽を楽しむことが出来た。招聘演奏家、オーケストラから参加したメンバーとも厳しい感染対策を要求されているにもかかわらず、コロナ禍で不自由を強いられてきた多くの聴衆をやさしい気持ちにしてくれる、改めて音楽の持つ力を伝えてくれた。

表彰・受賞

第37回日本管打楽器コンクールが開催

2年間コロナ禍の為、開催が中止となっていた日本管打楽器コンクールが無観客ではあったものの3年ぶりに8月8日から8月27日にかけて、オーボエ、サクソフォン、パーカッション、マリンバの4部門が音楽大学の協力を得て開催された。8月31日は各部門1位による特別大賞演奏会が、かつしかシンフォニーヒルズ大ホールで開催された(コロナ禍のため関係者のみ)。結果は以下の通り。

【特別大賞】

サクソフォン部門 五十嵐 健太

【オーボエ部門】

第1位 荒木良太(東京藝術大学在学)

第2位 石井智章

(パシフィックフィルハーモニア東京)

第3位 榎 かぐや(東京音楽大学卒)

【サクソフォン部門】

第1位 五十嵐 健太(東京藝術大学在学)

第2位 山本航司(東京藝術大学在学)

第3位 住谷美帆(昭和音楽大学講師)

【パーカッション部門】

第1位 安藤 巴(東京藝術大学卒)

第2位 中島良太(海上自衛隊舞鶴音楽隊)

第3位 落合空千(相愛大学大学院在学)

【マリンバ部門】

第1位 岡田 満里子(東京藝術大学大学院在学)

第2位 常盤絃生(ウィーン国立音楽大学在学)

第3位 櫻井秀悠(洗足学園音楽大学在学)

小澤征爾さんが「オーストリア音楽劇場賞・国際文化交流特別賞」を受賞

小澤征爾さんはオーストリアのオペラハウスや劇場で優れた業績をあげた人物に贈られる「オーストリア音楽劇場賞」の国際文化交流特別賞を受賞した。これは小澤さんのウィーン

におけるウィーン国立歌劇場やウィーン・フィルでの活躍が評価されたもの。

ジュネーブ国際コンクール作曲部門で中橋祐紀さんが第2位

第76回ジュネーブ国際コンクールの作曲部門において、中橋祐紀さんが第2位に入賞した。課題は声楽六重唱、曲名は「セッティングス」。中橋さんは東京藝術大学大学院を修了後、現在はパリ国立高等音楽院に在学中。

第32回芥川也寸志作曲賞に波立裕矢さん

第32回芥川也寸志サントリー音楽賞に波立裕矢(はりゆう ゆうや)さんの作曲した「失われたイノセンスを追う。IIオーケストラのための」が選ばれた。賞金150万円。本作品の初演は2021年6月4日東京藝術大学奏楽堂。波立さんは2018年愛知県立芸術大学を卒業後、東京藝術大学大学院を修了。これまで第35回現音作曲新人賞を受賞、第89回日本音楽コンクール作曲部門で第1位を獲得している。

リレーエッセイ

オケ連の黎明期をはじめ、創設にご尽力頂いた方々のエッセイをお届けしています。

**オーケストラが
先頭に立っての活動**



元新星日本交響楽団専務理事・楽団長
樽松 三郎

1997年8月に東京都が「財政健全化計画実施案」を発表しました。この案が通ると東京都の文化会館、芸術劇場等、すべての文化施設の使用料が2倍の大幅値上げになります。そこで、日本オーケストラ連盟の岡山尚幹さん、新星日本交響楽団の樽松三郎さんが中心となり数多くの団体に働きかけ98もの芸術文化団体が結束して「東京都文化施設大幅値上げを許さない会」を立ち上げました。実行委員長にピアニストの中村絃子さんが就任しました。9月18日には青島幸男都知事に面会し、「大幅値

上げ案」を撤回する要請文を手渡しました。9月27日には東京芸術劇場で指揮者の秋山和慶、井上道義、外山雄三、コンサート・マスターは徳永二男、そしてN響、読響、日フィル、新日本フィル、東響、東フィル、新星日響、東京シティ・フィルによる特別編成のオーケストラ、ソリストには中村絃子をはじめソプラノの緑川まり他を迎え「芸術文化都市東京をねがうコンサート」を開催しました。短期間の準備での実施でしたが、満席の聴衆を迎え大成功を納め、多くのマスコミにも報道されました。そして中村絃子さんによる素敵メッセージが発表されました。

【芸術そして文化は魂の土壌です】

「東京都文化施設使用料大幅値上げを許さない芸術・文化団体の会」実行委員長
中村絃子

これまで人類の歴史に於いて、芸術そして文化は、しばしば無用なもの二義的なものと考えられてきました。

芸術は花のようなものです。たしかに花は食べられず、しかもこれを育て花を咲かせるにはものすごい手間暇がかかります。しかし一方で私たちは遙か遠い昔から、「人

の生きるはパンのみによるにあらず」、私たちの生きる意味、その充実、その夢を、暮夜ひそかに問い続けてきました。私たちは何のために生きているのか……その魂の豊かさを求める熱いもののおもいこそ、激変ただならぬ人類の歴史を通じて、多様で見事な芸術をそして文化を育て咲かせてきたものでありましょう。(中略)二十一世紀を目前にして、物質的繁栄のさなかで魂の危機がようやく明らかになっている今、芸術そして文化は、魂の土壌、心の根源的環境問題ともいえるのではないのでしょうか。

.....

今日、世界で数々の課題があります。オーケストラが力を合わせれば日本のみならず世界と共に取り組むことができます。「地球の環境問題」も全世界の課題だと思えます。

プロフィール
樽松 三郎(くれまつ さぶろう)

1945年東京生まれ。東京藝術大学卒業。
(財)新星日本交響楽団 専務理事・楽団長。
(財)東京フィルハーモニー交響楽団 常務理事。
東京藝術大学客員教授
(独)日本芸術文化振興会
プログラムオフィサー(音楽分野) 歴任

コンサート津々浦々

加盟オーケストラの2022年10月時点での情報です。
今後の状況により変更を余儀なくされる場合もございますので、
コンサート実施の最新情報はそれぞれのオーケストラのホームページ等で
ご確認くださいませようお願いします。



■ 正会員 ■ 準会員

札幌交響楽団

問合せ 011-520-1771

定期演奏会 ~会場:札幌コンサートホールKitara~

第650回 2023年2月4日(土) 17時 / 2月5日(日) 13時

指揮: マティアス・バーメルト フルート: カール=ハインツ・シュッツ ハープ: 吉野直子

【曲目】 武満徹 雨ぞふる モーツァルト フルートとハープのための協奏曲 シューベルト 交響曲「ザ・グレート」

第651回 2023年3月4日(土) 17時 / 3月5日(日) 13時

指揮: 尾高忠明 ヴァイオリン: 金川真弓

【曲目】 エルガー 南国にて プロコフィエフ ヴァイオリン協奏曲第1番 ラフマニノフ 交響的舞曲

各1回券=SS7,000円 S6,000円 A5,000円 B4,500円 C3,500円

*U25割(1997年以降生まれ) B,C 1,500円 当日販売限定スマイル席2,000円

東京公演 2023 ~2023年2月9日(木) 19時 会場:サントリーホール~

出演・内容は第650回定期演奏会と同じ

チケット=S6,500円 A5,500円 B4,500円 C3,500円 *U25割 C1,500円

詳細は、公式ホームページをご覧ください <https://www.sso.or.jp>



マティアス・バーメルト (首席指揮者) © Yasuo Kishi



尾高忠明 (名誉音楽監督) © Martin Richardson



カール=ハインツ・シュッツ © T. Takahata



金川真弓 © Kaupo Kikkas



吉野直子 © Akira Muro

札幌交響楽団
公式ホームページ



仙台フィルハーモニー管弦楽団

問合せ 022-225-3934

定期演奏会 会場:日立システムズホール仙台・コンサートホール

金曜日 各日19時開演 土曜日 各日15時開演

【全席指定】 S席: ¥5,100 S席ユース: ¥2,000 A席: ¥4,600 A席ユース: ¥1,500 Z席: ¥2,000 ※ユース: 演奏会当日25歳未満の方が対象

第360回 1月27日(金)・28日(土)

指揮: マキシム・バスカル

ラヴェル: ス페인狂詩曲

ブリテン: 歌劇「ピーター・グライムス」より
“4つの海の間奏曲”

ムソルグスキー: 交響詩「禿山の一夜」(原典版)

デュティユー: 交響曲第1番



© PH Luzon Orchestra Ltd

第361回 2月17日(金)・18日(土)

指揮: 高関 健

ピアノ: 小山 実稚恵

ベートーヴェン: ピアノ協奏曲第5番「皇帝」

ショスタコヴィチ: 交響曲第10番



© K. Miura



© Miki Oikawa

第362回 3月17日(金)・18日(土)

指揮: 飯守 泰次郎

ワーグナー: 楽劇「トリスタンとイゾルデ」より
“前奏曲と愛の死”

ブルックナー: 交響曲第7番



© 武藤 雄

お申込み・お問合せ: 仙台フィルサービス 022-225-3934 <https://www.sendaiphil.jp/>

東京ユニバーサル・フィルハーモニー管弦楽団

問合せ 03-3766-0876



第29回

初夢コンサート 2023

2023年 1月14日(土)

大田区民プラザ大ホール

18時00分開場 18時30分開演

S席(指定席) ¥4,000

A席(自由席) ¥3,000

第1部 鍛冶屋のポルカ、美しき青きドナウ、ウイーンの森の物語、他

第2部 清らかな女神よ、キウウの鳥の歌(ウクライナ民謡)、春の声、他

【出演】 東京ユニバーサル・フィルハーモニー管弦楽団

【指揮】 松岡 究

【共演】 オクサーナ・ステパニョック(ソプラノ) ウクライナの歌姫

【地元協賛出演】 東京高等学校吹奏楽部 大田ジュニアストリングス



配信予定
詳しくは
HP

問合せ・チケット ユニフィル事務局 Tel 03-3766-0876 Mail info@uniphil.gr.jp <http://www.uniphil.gr.jp>

山響50th Anniversary "Soloistic"

定期演奏会 [会場]山形テルサ [開演]土曜19:00/日曜15:00

[チケット料金]A席:4,800円 B席:4,300円 学生(B席):2,600円 Bペア:7,400円

第306回 2月11日(土)/12日(日)

指揮:川瀬 賢太郎 ピアノ:松田 華音
細川俊夫:セレモニアル・ダンス
ラフマニフ:バガニーニの主題による狂詩曲 作品 43
ベートーヴェン:交響曲 第5番 ハ短調「運命」作品 67



第307回 3月11日(土)/12日(日)

指揮:飯森 範親 チェロ:堤 剛
ハイドン:チェロ協奏曲 第2番 ニ長調 Hob.VIIb:2
ブルックナー:交響曲 第7番 ホ長調 WAB 107(ハース版)



90歳を迎える巨匠"村川千秋のシベリウス"
~やまぎん県民ホールシリーズVol.4~

1月15日(日) 15:00開演 やまぎん県民ホール

指揮:阪 哲朗 (チェンバロ)・村川 千秋
ヴァイオリン:辻 彩奈

ヴィヴァルディ:ヴァイオリン協奏曲集《四季》
シベリウス:交響曲 第3番 ハ長調 作品 52



(お問合せ・お申し込み) 山響チケットサービス TEL: 023-616-6607 (月~金※祝日を除く10:00~17:00)

2023年 定期演奏会 後期シーズン

定期演奏会チケット 各回共通 1回券(全席指定)
SS席:6,500円 S席:5,500円 A席:5,000円
B席:4,000円 C席:3,000円 ※東京特別公演は別料金



GTシンフォニック・コンサートvol.5
ジブリ&ミュージカルナンバー
~音楽の贈り物~



第584回 1月21日(土) 16:00 高崎芸術劇場 大劇場

指揮/飯森範親(群響アドバイザー) サクソフォン/住谷美帆*
ウェーバー/歌劇《オイリアンテ》J.291 から 序曲
西村朗/サクソフォン協奏曲「魂の内なる存在」*
マーラー/交響曲 第1番 ニ長調「巨人」

東京特別公演 2月18日(土) 15:00 サントリーホール

第585回 2月19日(日) 16:00 高崎芸術劇場 大劇場
指揮/小林研一郎(群響桂冠指揮者) ヴァイオリン/神尾真由子*
チャイコフスキー/ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品 35*
チャイコフスキー/交響曲 第6番 ロ短調 作品 74「悲愴」

東京特別公演(全席指定)
S席:6,000円
A席:5,000円
B席:4,000円
C席:3,000円



2月23日(木・祝) 14:00開演
高崎芸術劇場 大劇場

指揮/田中祐子
ゲスト/小野あつこ
久石譲/交響組曲「魔女の宅急便」ほか

チケット(全席指定)
S席5,000円 A席4,000円 B席3,000円
[U-25]
S席2,500円 A席2,000円 B席1,500円



第586回 3月25日(土) 16:00 高崎芸術劇場 大劇場

指揮/大植次次 ピアノ/小曾根真*
武満徹/弦楽のためのレイクエム
ガーシュウィン/ラプソディ・イン・ブルー*
ベートーヴェン/交響曲 第3番 変ホ長調 作品 55「英雄」



群馬交響楽団 HP



チケットオンライン



各コンサートの詳細・チケットについては群響HPをご覧ください。 http://www.gunkyo.com/ 群馬交響楽団事務局(平日10:00~18:00) 027-322-4944 (チケット専用電話)

2022-23シーズン定期公演 WINTER(2022年12月-2023年2月)



Aプログラム NHKホール

土 18:00
日 14:00

第1971回 | 12/3(土), 4(日)
指揮:ファビオ・ルイジ
メゾ・ソプラノ:藤村実穂子
ワーグナー/ウェーゼンドクの5つの詩
ブルックナー/交響曲 第2番
(初稿/1872年)

第1974回 | 1/14(土), 15(日)
指揮:トゥガン・ソビエフ
ピアノ:ハオチェン・チャン
ブラームス/ピアノ協奏曲 第2番
ベートーヴェン/交響曲 第4番

第1977回 | 2/4(土), 5(日)
指揮:尾高忠明
チェロ:宮田 大
尾高尚志/チェロ協奏曲
パナフニック/カティンの墓碑銘
ルトスワフスキ/管弦楽のための協奏曲



Bプログラム サントリーホール

水 19:00
木 19:00

第1973回 | 12/14(水), 15(木)
指揮:ファビオ・ルイジ
ピアノ:河村尚子
ラフマニフ/ピアノ協奏曲 第2番
ドヴォルザーク/交響曲 第9番
「新世界から」ほか

第1976回 | 1/25(水), 26(木)
指揮:トゥガン・ソビエフ
ヴィオラ:アミハイ・グロス
ハルトーク/ヴァイオリン協奏曲
ラヴェル/「ダフニスとクロエ」組曲
第1番、第2番
ドビュッシー/交響詩「海」

第1979回 | 2/15(水), 16(木)
指揮:ヤクブ・フルシヤ
ピアノ:ピョートル・アンデルシェフスキ*
ドヴォルザーク/序曲「フス教徒」
シマノフスキ/交響曲 第4番
「協奏交響曲」*
ブラームス/交響曲 第4番



Cプログラム NHKホール

金 19:30
土 14:00

第1972回 | 12/9(金), 10(土)
指揮:ファビオ・ルイジ
モーツァルト/交響曲 第36番「リンツ」
メンデルスゾーン/交響曲 第3番
「スコットランド」

第1975回 | 1/20(金), 21(土)
指揮:トゥガン・ソビエフ
ラフマニフ/幻想曲「岩」
チャイコフスキー/交響曲 第1番
「冬の日の幻想」

第1978回 | 2/10(金), 11(土・祝)
指揮:ヤクブ・フルシヤ
バーンスタイン/「ウエスト・サイド・ストーリー」
— シンフォニック・ダンス
ラフマニフ/交響的舞曲

リニューアル!Cプログラム! ■全公演「休憩のない60~80分程度の公演」に ■料金をよりリーズナブルに ■「開演前の室内楽」開催

ベートーヴェン「第9」演奏会



12/21(水) 19:00
12/22(木) 19:00
12/24(土) 14:00
12/25(日) 14:00
NHKホール
※22日はチャリティコンサート

かんぼ生命 presents
N響第九 Special Concert
12/27(火) 19:00 サントリーホール

指揮:井上道義
独唱:クリスティーン・ランツハマ、藤村実穂子
ベンヤミン・ブルンス、マシュー・ローズ
合唱:新国立劇場合唱団
東京オペラシンガーズ

www.nhkso.or.jp

Follow us on

やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

2022年度 モーニング・コンサート



Table with 3 columns: Concert No., Date, and Program details (Conductor, Instruments, Soloists).



詳細はHPをご覧ください。 https://www.geidai.ac.jp/event/sogakudo

2023年度 主な演奏会のご案内

- List of upcoming concerts: Morning Concert (Series), Regular Concerts, New Graduate Introduction Concerts, Opera Regular Concerts, Chorus Regular Concerts, and other special performances.

2022/2023シーズン定期演奏会、チケット好評販売中!

https://www.njp.or.jp

すみだクラシックへの扉 第12回

第646回定期演奏会

第647回定期演奏会

2023/1/13(金)・1/14(土) 両日 14:00
すみだトリフォニーホール

指揮 = 高関 健 ピアノ = ネルソン・ゲルナー*
プログラム: ピアノ協奏曲第2番 変ロ長調 op. 83*
プログラム: 交響曲第3番 へ長調 op. 90



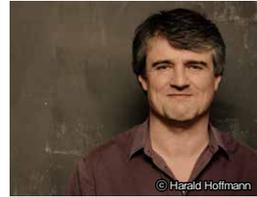
2023/1/21(土) 14:00 すみだトリフォニーホール
2023/1/23(月) 19:00 サントリーホール

総監督(指揮/脚本/作曲/演出/振付) = 井上道義
井上道義: ミュージカルオペラ『A Way from Surrender
〜降福からの道〜』op. 4



2023/3/4(土) 14:00 すみだトリフォニーホール
2023/3/6(月) 19:00 サントリーホール

指揮 = インゴ・メッツマツハー
ヴァイオリン = クリスティアン・テツラフ*
ウェーベルン: パッサカリア op. 1
ベルク: ヴァイオリン協奏曲*
シェーンベルク: 交響詩「ベレアスとメリザンド」op. 5



東京交響楽団

問合せ 044-520-1511

原田慶太楼と、劇伴音楽の巨人的存在・菅野祐悟の交響曲

2月19日(日) 14:00 サントリーホール

指揮: 原田慶太楼、ピアノ: アレクサンダー・ガヴリリユク
小田実結子: Kaleidoscope of Tokyo (東京交響楽団委嘱作品/世界初演)
グリーグ: ピアノ協奏曲 イ短調
菅野祐悟: 交響曲 第2番 “Alles ist Architektur” -すべては建築である

佐藤俊介による弾き振り

3月18日(土) 18:00 サントリーホール

指揮&ヴァイオリン: 佐藤俊介
シュボア: ヴァイオリン協奏曲 第8番 イ短調
ベートーヴェン: 交響曲 第1番 へ長調
メンデルスゾーン: 弦楽のための交響曲 第8番 二長調

[両公演共通] S¥7,000 A¥6,000 B¥5,000 C¥4,000 P¥2,500



東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団

問合せ 03-5624-4002

ウィンターシーズン シーズンセット券・1公演券発売中!

定期演奏会 会場: 東京オペラシティ コンサートホール

第357回

2023年1月28日(土) 14時開演

【指揮】高関 健(常任指揮者)
【ピアノ】小林愛実
ベートーヴェン: 「献堂式」序曲 作品124
ベートーヴェン:
ピアノ協奏曲第3番 へ短調 作品37
R. シュトラウス: 交響詩「英雄の生涯」作品40



第358回

2023年2月17日(金) 19時開演

【指揮】川瀬賢太郎
【ヴァイオリン】郷古 廉
マクミラン: ヴァイオリン協奏曲
ベルリオーズ: 幻想交響曲 作品14



第359回

2023年3月18日(土) 14時開演

【指揮】高関 健(常任指揮者)
【チェロ】佐藤晴真
カバレフスキー:
チェロ協奏曲第1番 短調 作品49
ショスタコーヴィチ: 交響曲第7番 へ長調
作品60「レニングラード」



第72回

2023年2月4日(土) 15時開演

【指揮】高関 健(常任指揮者)
【ピアノ】佐川和牙
バルトーク: 弦楽のためのデヴィエルティメント
モーツァルト:
ピアノ協奏曲第21番 へ長調 K.467
ドヴォルザーク: 交響曲第8番 短調 作品88



チケット料金 S席¥6,000 A席¥5,000 B席¥4,000 C席¥3,000 (座席指定・税込) U20 ¥1,000 (座席指定不可・税込)
U30 ¥2,000 (座席指定不可・税込) プラチナ S席¥4,500 プラチナ A席¥3,500 (60歳以上・税込)

S席¥3,500 A席¥3,000 B席¥2,500 (座席指定・税込)
U20 ¥1,000 U30 ¥1,500 (座席指定不可・税込)

千葉交響楽団

問合せ 043-222-4231

ニューイヤーコンサート2023 新春を寿ぐ歌声



2023年1月14日(土) 14時開演 千葉県文化会館大ホール

レハール/喜歌劇「メリー・ウイドウ」より“ヴィリアの歌”

グノー/歌劇「ファウスト」より“宝石の歌”

ヨハン・シュトラウスⅡ/ワルツ「美しく青きドナウ」ほか

指揮: 山下一史(音楽監督)

ソプラノ: 小林沙羅

入場料・全席指定 S席 5,000円 A席 4,000円 B席 3,000円



第970回定期演奏会 Aシリーズ

2023年3月15日(水) 19:00開演
東京文化会館

都響スペシャル

2023年3月16日(木) 19:00開演
サントリーホール

指揮/大野和士
ソプラノ/中村恵理
メゾソプラノ/藤村実穂子
合唱/新国立劇場合唱団
マーラー:交響曲第2番 ハ短調《復活》
S席¥9,000 A席¥8,000 B席¥7,000
C席¥6,000 Ex席¥4,200 (3/15のみ)
シルバーエイジ (65歳以上) S席~C席2割引、
U-25 (25歳以下) S席~C席5割引

プロムナードコンサートNo.401

2023年3月21日(火・祝) 14:00開演
サントリーホール

指揮/大野和士
ピアノ/ジャン=エフラム・バヴゼ
バルトーク: 舞踏組曲 Sz.77
バルトーク: ピアノ協奏曲第1番 Sz.83
ラヴェル: クープランの墓
ドビュッシー: 交響詩《海》 - 3つの交響的スケッチ
S席¥7,000
A席¥6,000
B席¥5,000
P席¥3,500
シルバーエイジ (65歳以上)
S席~B席2割引、
U-25 (25歳以下)
S席~B席5割引



指揮 大野和士 © Herbie Yamaguchi

第971回定期演奏会 Bシリーズ

2023年3月27日(月) 19:00開演
都響スペシャル

2023年3月28日(火) 19:00開演
両公演:サントリーホール

指揮/大野和士
ヴァイオリン&声/パトリツィア・コパチンスカヤ
合唱/栗友会合唱団
リゲティ(アブラハムセン編曲):
虹~ピアノのための練習曲集第1巻より [日本初演]
リゲティ: ヴァイオリン協奏曲
バルトーク:《中国の不思議な役人》op.19 Sz.73 (全曲)
リゲティ: マカールの秘密
S席¥8,000 A席¥7,000 B席¥6,000 C席¥5,000
シルバーエイジ (65歳以上) S席~C席2割引、
U-25 (25歳以下) S席~C席5割引

お問合せ 都響ガイド 0570-056-057 (平日 10:00 ~ 18:00) <https://www.tmso.or.jp/>

パシフィックフィルハーモニア東京(旧:東京ニューシティ管弦楽団)

東京芸術劇場定期演奏会

第154回定期演奏会

2023年1月28日(土)
開演14:00 (13:00開場)
指揮:園田隆一郎 ヴァイオリン:ヤン・インモ*
ケルビーニ/歌劇「デモフォン」序曲
バガニニ/ヴァイオリン協奏曲第1番
ニ長調 作品6*
マルトゥッチ/夜想曲第1番 作品70
ビゼー/組曲「ローマ」



第155回定期演奏会

2023年3月4日(土)
開演14:00 (13:00開場)
指揮:飯森範親 ヴァイオリン:神尾真由子*
イェルク・ヴァイトマン/
ヴァイオリン協奏曲第1番(日本初演)*
ブルクナー/交響曲第4番 変ホ長調
「ロマンティック」
(ノヴァーク版 1878/80)



北とびあシリーズ

ニューイヤーコンサート2023 in北とびあ

2023年1月17日(火)
開演14:30 (13:45開場)
指揮:飯森範親
ソプラノ:梅津 碧
ヨハン・シュトラウス2世/皇帝円舞曲 作品437
ヨハン・シュトラウス2世/ワルツ「春の声」作品410
アダン/きらきら星変奏曲 ほか



チケット・お問い合わせ

【チケットデスク】
03-5933-3266
(平日10時~18時)
WEB予約
《東京芸術劇場》 《ニューイヤー》
SS席: 8,500円 S席: 5,000円
S席: 7,000円 A席: 4,000円
A席: 5,500円 B席: 3,000円
B席: 4,500円 C席: 2,000円
C席: 3,500円
※シニア10%引き、学生半額



東京フィルハーモニー交響楽団

2023シーズン定期演奏会

チケット定価(税込・全席指定) SS席¥15,000 S席¥10,000 A席¥8,500 B席¥7,000 C席¥5,500

東京フィルチケットサービス 03-5353-9522 (10~18時・チケット発売日を除く土日祝休) 東京フィルWEBチケットサービス www.tpo.or.jp/

1月定期演奏会

26日(木) 19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール
27日(金) 19:00開演 サントリーホール 大ホール
29日(日) 15:00開演 Bunkamura オーチャードホール
指揮:チョン・ミョンフン(名誉音楽監督)
シューベルト/交響曲第7番『未完成』
ブルクナー/交響曲第7番(ノヴァーク版)



指揮:チョン・ミョンフン(名誉音楽監督) © 上野隆文

2月定期演奏会

22日(水) 19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール
24日(金) 19:00開演 サントリーホール 大ホール
26日(日) 15:00開演 Bunkamura オーチャードホール
指揮:ミハイル・ブレトニョフ(特別客演指揮者)
ピアノ:イム・ユンチャン*
(2022年ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール優勝)
ベートーヴェン/ピアノ協奏曲第5番『皇帝』*
チャイコフスキー/マンフレッド交響曲



指揮:ミハイル・ブレトニョフ(特別客演指揮者) © Takashi Fujimoto
ピアノ:イム・ユンチャン © Lisa Mito Mazzocco

3月定期演奏会

9日(木) 19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール
10日(金) 19:00開演 サントリーホール 大ホール
12日(日) 15:00開演 Bunkamura オーチャードホール
指揮:アンドレア・パッティストーニ(首席指揮者)
ベルリオーズ/序曲『ローマの謝肉祭』
カゼッラ/狂詩曲『イタリア』(カゼッラ生誕140年)
サン=サーンス/交響曲第3番『オルガン付き』



指揮:アンドレア・パッティストーニ(首席指揮者) © 上野隆文

富士山静岡交響楽団

浜松ニューイヤーコンサート

1月14日(土) 14:00
サラー音楽ホール
【指揮】原田慶太楼
【ヴァイオリン】大谷 康子
サラサーテ/カルメン幻想曲
ツイゴイネルワイゼン
J.シュトラウス2世/
ワルツ「美しく青きドナウ」他



© Shin Yaraagishi

第116回定期演奏会 ~ハイドンシリーズvol.9~

1月28日(土) 14:00
しずぎんホールユーフォニア
【指揮】原田幸一郎
【ヴァイオリン】前田 妃奈
ハイドン/交響曲第101番「時計」
J.S. バッハ/ヴァイオリン協奏曲第2番
ハイドン/交響曲第103番「太鼓連打」
ハイドン/交響曲第104番「ロンドン」



© 堤田九丸

第117回定期演奏会

3月4日(土) 14:00 静岡市清水文化会館マリナート
3月5日(日) 14:00 アクティシティ浜松
【指揮】高関 健(首席指揮者)
【ヴァイオリン】ティモシー・チューイ
武満 徹/弦楽オーケストラのための
「3つの映画音楽」
プロコフィエフ/ヴァイオリン協奏曲第2番
ドヴォルザーク/交響曲第6番



© Masahide Sato

全席指定 2,000円 ※前日13日(金)に同プログラムの静岡公演(事前申込制)がございます。

【各公演 前売券】全席指定/A席4,500円 B席3,500円 B席学生1,500円 ※当日500円増(B席学生は除く)

首席客演指揮者 カーチュン・ウォン×日本フィル!

第399回名曲コンサート

2023年1月15日(日) 14:00開演
サントリーホール

New Year Concert2023

ギター: 村治佳織

ロドリゴ: アランフェス協奏曲

ベートーヴェン: 交響曲第3番《英雄》

SS ¥8,000 S ¥7,000
A ¥5,500 B ¥5,000
C ¥4,500 P ¥4,000
Gs (65歳以上) ¥4,000
Ys (25歳以下) ¥1,500



© Ayako Yamamoto

第747回東京定期演奏会

2023年1月20日(金) 19:00開演
1月21日(土) 14:00開演
サントリーホール

カーチュンと奏でる東洋と西洋のFolk Song

伊福部昭: シンフォニア・タブカーラ

バルトーク: 管弦楽のための協奏曲

S ¥8,000
A ¥6,500
B ¥6,000
C ¥完売
P ¥4,000
Ys ¥1,500



© Angie Kremer

第384回横浜定期演奏会

2023年1月28日(土) 17:00開演
横浜みなとみらいホール

第244回芸劇シリーズ

2023年1月29日(日) 14:00開演
東京芸術劇場

俊英たちが導くラフマニノフへの旅路

ピアノ: 小菅優

ラフマニノフ: ピアノ協奏曲第3番

ラフマニノフ: 交響曲第2番

[1/28] S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C ¥5,000
P 完売 Ys ¥1,500
[1/29] S ¥7,000 A ¥5,500 B ¥5,000 C ¥4,000
Ys ¥1,500 Gs ¥4,000



© Takashi Eto

[お問合せ・お申込み] 日本フィル・サービスセンター TEL:03-5378-5911 (平日11時~17時) FAX:03-5378-6161 (24時間) 日本フィルチケット www.japanphil.or.jp

読売日本交響楽団

問合せ 0570-00-4390

第660回名曲シリーズ

名匠ヴァイグレが振るシューマン

国際的に活躍する金川がブラームス作品で神髄に迫る

2月17日(金) 19:00開演 サントリーホール

【指揮】セバスティアン・ヴァイグレ (常任指揮者)

【ヴァイオリン】金川真弓

ベートーヴェン: 「コリオラン」 序曲

ブラームス: ヴァイオリン協奏曲

シューマン: 交響曲第2番



© 読売



© Kaupo Kikas

第625回定期演奏会

注目の新星ラキティナが初登場

フランスの俊英カプソンがエスケシュの新作を日本初演

2月22日(水) 19:00開演 サントリーホール

【指揮】アンナ・ラキティナ

【ヴァイオリン】ルノー・カプソン

エレナ・ランガー: 歌劇「フィガロの離婚」組曲 (日本初演)

エスケシュ: ヴァイオリン協奏曲 (日本初演)

チャイコフスキー: 交響曲第1番「冬の日の幻想」



© Julia Rivin



© Simon Fowler Erato

第626回定期演奏会

気鋭・鈴木優人が自作の新曲を披露

世界的ヴィオラ奏者タメステイがヴィトマン作品を弾く! 鮮烈! 鈴木優人が自作とシューベルトの傑作を披露

3月9日(木) 19:00開演 サントリーホール

【指揮】鈴木優人【ヴィオラ】アントワーン・タメステイ

鈴木優人: 読響創立60周年記念委嘱作品 (世界初演)

ヴィトマン: ヴィオラ協奏曲 (日本初演)

シューベルト: 交響曲第5番



© 読売



© Julien Mignot

[チケット料金(全公演共通)] S ¥7,600 A ¥6,600 B ¥5,600 C ¥4,100

[お問合せ・お申し込み] 読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時~18時) https://yomikyo.or.jp/

神奈川フィルハーモニー管弦楽団

問合せ 045-226-5107

特別演奏会ベートーヴェン第九公演For Children

2022年12月7日(水) 19:00
ミュゼ川崎シンフォニーホール

三ツ橋敬子(指揮)

富平安希子(ソプラノ) 山下裕賀(メゾソプラノ)

村上公太(テノール) 三戸大久(バスバリトン)

プロ歌手による神奈川フィル合唱団

ベートーヴェン/交響曲第9番「合唱付」

[チケット料金]

S席 7,000円
A席 5,000円
B席 4,000円



© Earl Ross

東京公演For Future

2023年1月20日(金) 19:00
東京オペラシティコンサートホール

沼尻竜典(指揮・音楽監督)

神尾真由子(ヴァイオリン)

アレシュ・バルタ(パイプオルガン)

ベートーヴェン/ヴァイオリン協奏曲

サン＝サーンス/

交響曲第3番「オルガン付き」

[チケット料金]

S席 6,000円
A席 4,500円
B席 3,000円



© Marco Borggreve

神奈川フィル・チケットサービス 045-226-5107 (平日10時~18時) https://www.kanaphil.or.jp

中部フィルハーモニー交響楽団

問合せ 0568-43-4333

第84回定期演奏会 KOMAKIシリーズ2

2022年12月11日(日)
開演15:00 小牧市市民会館

指揮/秋山和慶

独唱/Sop. 伊藤 晴、Mez. 相可佐代子

Ten. 小原啓楼、Bass. 甲斐栄次郎

合唱/名古屋芸術大学ハルモニオ合唱団

名古屋芸術大学学生会合唱団

こまき第九 2022 特別合唱団

ベートーヴェン: 交響曲第9番「合唱付き」他



岐阜特別演奏会 2023年1月14日(土)

開演14:00 サラマンカホール

指揮/横山 奏

モーツァルト: 交響曲第41番「ジュピター」他

幸田特別演奏会 2023年1月28日(土)

開演15:00 幸田町民会館

指揮/松村 秀明

ソロ/Vn. 磯絵里子 Vc. 新倉 瞳

Pf. 高橋多佳子 [椿三重奏団]

リスト: ピアノ協奏曲第1番 他

第85回定期演奏会 KOMAKIシリーズ3

2023年2月11日(土)
開演15:00 小牧市市民会館

指揮/飯森範親 ヴァイオリン/周防亮介

シューマン: 交響曲第3番「ライン」他

小牧特別演奏会 2023年3月11日(土)

開演15:00 小牧市市民会館

指揮/田中祐子 ヴァイオリン/ティモシー・チュレイ

サラサーテ: ツィゴイネルワイゼン 他



© 山形伸



© saji Miyasui

チケットお取扱い・お問合せ 中部フィルハーモニー交響楽団 Tel 0568-43-4333 https://chubu-phil.com

ハイドンのロンドン精神

2022年12月8日(木) 18:00開場/18:45開演
電気文化会館ザ・コンサートホール
指揮/角田鋼亮(常任指揮者)
ヨハン・クリスチャン・バッハ:
交響曲ト短調 Op.6 No.6
ハイドン:交響曲第97番ハ長調
ハイドン:交響曲第98番変ロ長調



[指定席]一般4,000円 U25 1,000円

宮川彬良×セントラル愛知交響楽団
おもしろクラシック〜オーケストラ7変化〜

2022年12月13日(火) 17:45開場/18:45開演
愛知県芸術劇場コンサートホール
指揮・ピアノ・司会/宮川彬良
ソプラノ/加藤恵利子 パリトン/塚本伸彦
【第1部】名曲もお色直し
モーツァルト:アイネクライネ"タンゴ"ムジーク
ベートーヴェン:マンボno.5×交響曲no.5 他
【第2部】アキラさんのソングブック
宮川彬良:
「ゆうがたクインテット」より メインテーマ
〜ただいま考え中〜目は怒っている
宮川彬良:空のわすれもの
宮川彬良:オーケストラの森 他



[指定席] A席 4,000円 (Aベア席 6,000円)
B席 3,000円 (Bベア席 4,500円)
C席 2,000円 U25席 1,000円

定期演奏会 三井住友海上しらかわホール

第194回 2023年1月13日(金) 17:45開場/18:45開演
指揮/角田鋼亮(常任指揮者)
ワグナー:「ニュルンベルクのマイスタージンガー」より「第1幕への前奏曲」
ワグナー:ジークフリート牧歌
ドヴォルザーク:交響詩「英雄の歌」
シベリウス:交響詩「タビオラ」



[指定席]プラチナ席6,000円 A席5,000円 B席4,000円
C席3,000円 U25席1,000円

第195回 2023年3月17日(金) 17:45開場/18:45開演
指揮/角田鋼亮(常任指揮者)
メンツェル:ソプラノ/清水華澄
テノール/望月哲也
ショスタコヴィチ:交響曲第9番
マーラー:交響曲「大地の歌」
【室内オーケストラ編曲版】(編曲/萩森英明)・

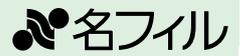


[主催・お問い合わせ]セントラル愛知交響楽団 ☎052-581-3851 http://www.caso.jp/

名古屋フィルハーモニー交響楽団

定期演奏会「シンフォニスト」シリーズ

会場:愛知県芸術劇場コンサートホール
開演:[金] 18:45 [土] 16:00



S席:¥6,400 A席:¥5,200 B席:¥4,200 C席:¥3,200 D席:¥2,200 ※各公演 25歳以下、65歳以上に割引あり。

第507回〈シベリウス〉 2022年12月9日(金)/10日(土)

川瀬賢太郎(指揮/名フィル正指揮者) 上野耕平(サクソフォン)*
▼武満徹:波の盆
▼リュエフ:サクソフォン小協奏曲*
▼坂田直樹(名フィルコンポーザー・イン・レジデンス):
盗まれた地平-ソプラノ・サクソフォンと
管弦楽のための【委嘱新作・世界初演】*
▼シベリウス:交響曲第5番



第508回〈ニールセン〉 2023年1月20日(金)/21日(土)

ロベルト・フォレス・ペセス(指揮)
本條秀慈郎(三味線)*
▼シベリウス:交響詩「タビオラ」
▼藤倉大:三味線協奏曲【管弦楽版】*
▼ニールセン:交響曲第4番『不滅(消し難きもの)』



お問い合わせ:名フィル・チケットガイド Tel. 052-339-5666 (9:00~17:30/土日祝休) www.nagoya-phil.or.jp

第509回〈チャイコフスキー〉 2023年2月3日(金)/4日(土)

小泉和裕(指揮/名フィル音楽監督)
▼シューマン:交響曲第1番
▼チャイコフスキー:交響曲第5番



第510回〈アーノルド〉 2023年3月10日(金)/11日(土)

大井剛史(指揮) アレクサンダー・ガジェヴ(ピアノ)*
▼ヒグドン:ブルー・カテドラル
▼ショパン:アンダンテ・スピアナートと
華麗なる大ポロネーズ*
▼酒井健治:ピアノ協奏曲『キューブ』
【委嘱新作・世界初演】*
▼アーノルド:交響曲第5番



オーケストラ・アンサンブル金沢

ニューイヤーコンサート2023

Table with 3 columns: Concert number, Date, Venue. Includes details for 462nd regular performance, New Year concert, and 46th anniversary concert.

指揮:川瀬賢太郎(OEKパーマネント・コンダクター)
チェロ:宮田大
リゲティ/ルーマニア協奏曲
チャイコフスキー/ロココ風の主題による変奏曲
ベートーヴェン/交響曲第8番 へ長調



[第462回定期公演]
SS席 7,000円 S席 6,000円 A席 5,000円 B席 3,000円
スターライト席 1,500円 車椅子席 6,000円
[射水公演]一般3,000円(当日3,500円) 高校生以下1,000円
[岩国公演]S席 6,000円 A席 5,000円 親子ペア 7,000円 学生 1,000円

広上淳一アーティスティック・リーダー×米元響子

Table with 2 columns: Concert number, Date, Venue. Includes details for 466th regular performance and 39th Tokyo regular performance.

指揮:広上淳一(OEKアーティスティック・リーダー)
ヴァイオリン:米元響子
シューベルト/交響曲第5番 変ロ長調
モーツァルト/ヴァイオリン協奏曲第4番 二長調
ベートーヴェン/交響曲第2番 二長調



[第466回定期公演]
SS席 6,000円 S席 5,000円 A席 4,000円
B席 3,000円 スターライト席 1,000円
車椅子席 5,000円
[第39回東京定期公演]
S席 6,000円 A席 5,000円 B席 4,000円 C席 2,000円

https://www.oek.jp

京都フィルハーモニー室内合奏団

50th anniversary Kyoto Philharmonic Chamber Orchestra



Table with 4 columns: Concert date, Program title, Conductor, Venue. Includes details for 249th, 250th, 251st, and 251st anniversary performances.



セントラル愛知交響楽団 / 名古屋フィルハーモニー交響楽団 / オーケストラ・アンサンブル金沢 / 京都フィルハーモニー室内合奏団

共に響き合う、京響 City of Kyoto Symphony Orchestra 会場：京都コンサートホール・大ホール

2022年12/27(火)から発売!

第675回定期演奏会

ニコラ・アルトシュテットは今を生きる最先端のチェリスト指揮者としても本領を発揮

2023年2/17(金) 19:00開演

指揮&チェロ：ニコラ・アルトシュテット
シューマン：チェロ協奏曲イ短調作品129
ホルマイヤー：ユーゲントツァイト
シューマン：交響曲第3番変ホ長調作品97「ライン」



©Marco Bergsve

2023年1/21(土)から発売!

第676回定期演奏会

師バーンスタイン直伝のジョン・アクセルロッドの春祭はリズムが、音の炸裂が、弦楽器のうねりが凄い

2023年3/10(金) 19:30開演

フライデー・ナイト・スペシャル

3/11(土) 14:30開演

指揮：ジョン・アクセルロッド(首席客演指揮者)
独奏：三浦文彰(ヴァイオリン)
3/10(金)公演(フライデー・ナイト・スペシャル)
(休憩なし・約1時間プログラム)
パーパー：弦楽のためのアデージョ
ストラヴィンスキー：バレエ音楽「春の祭典」
3/11(土)公演
ガーシュウィン：バリのアメリカ人
コルンゴルト：ヴァイオリン協奏曲二長調作品35
ストラヴィンスキー：バレエ音楽「春の祭典」



©Steven Kohan



©Yuki Mori

■入場料

3/10(金)公演
(フライデー・ナイト・スペシャル)
S:4,000円 A:3,500円 B:3,000円
C:2,000円 P:1,500円
2/17(金)・3/11(土)公演
S:5,500円 A:5,000円 B:4,000円
C:3,000円 P:2,000円

■チケットご予約

京都コンサートホール・チケットカウンター
TEL(075)711-3231
24時間オンラインチケット購入
<https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/>

■京都市交響楽団
オフィシャル・ホームページ



第261回定期演奏会

会場：ザ・シンフォニーホール

開演：15:00 [14:00開場]

2023
2.5
(日)

「柴田真郁 ミュージックパートナー就任記念
オペラ・演奏会形式シリーズ Vol.1「ルサルカ」

指揮／柴田真郁(ミュージックパートナー)

王子／高橋達也 外国の王女／砂田愛梨
ルサルカ／森谷真理 水の精／田中由也
エジババ／福原寿美枝 森の番人／晴雅彦
料理人の少年／村松稔之 ほか
合唱／大阪響コーラス

ドヴォルザーク 歌劇「ルサルカ」作品114
演奏会形式 原語(チェコ語)上演【日本語字幕付き】



©T.Tairadate



©タクミジュン

主催／公益社団法人 大阪交響楽団
特別協賛／大和ハウス工業株式会社

S席 6,500円 オルガン席 2,000円
A席 5,500円 青少年学生券
B席 4,000円 1回券 1,000円
C席 2,500円 5回券 4,000円

※青少年学生券は楽団のみ取り扱い。当日座席指定。25歳までの学生のみ有効。
※未就学児のご入場はご遠慮ください。

チケット・問い合わせ

大阪交響楽団チケットセンター
TEL.072-226-5522 (平日10:00~17:00)

第564回定期演奏会

2023年1月19日(木) 午後7時開演

20日(金) 午後7時開演

会場：フェスティバルホール

チケット発売中

A席：6,300円 B席：5,300円 C席：4,200円
BOX席：7,400円 学生席：1,000円

第55回東京定期演奏会

2023年1月24日(火) 午後7時開演

会場：サントリーホール

チケット発売中

S席：6,600円 A席：5,500円
B席：4,400円 C席：3,300円

指揮：尾高忠明

池辺晋一郎／交響曲 第10番「次の時代のために」

ブルックナー／交響曲 第7番 ホ長調(ハース版)



© Martin Richardson



©前島隆

びわこのこえフェスティバルVol.3 オペラ・ガラ・コンサート

2022年12月17日(土) 16:00開演

会場：びわ湖ホール大ホール 出演者：石橋栄実、角田祐子、栗原未和、黒田恵美、池田香織、森季子、山際さみ佳、
指揮：牧村邦彦 島影聖人、竹内直紀、萩原次己、萩原寛明、晴雅彦、迎肇聡、ほか

曲目：オペラ「椿姫」「リゴレット」「ドン・カルロ」「カルメン」「ラ・ボエーム」「ドン・ジョヴァンニ」「魔笛」より アリア、重唱 ほか

入場料：4,000円(税込) 全席指定席、4歳未満のお子さまはご入場いただけません。



指揮：牧村邦彦

チケットに関するお問い合わせ先 びわ湖ホールチケットセンター 077-523-7136 びわこのこえ(担当：迎) biwakonokoe@gmail.com

第335回定期演奏会 会場：ザ・シンフォニーホール

2023年3月30日(木) 19:00 開演(18:00 開場)

至高の名匠飯守泰次郎、有無を言わさぬチャイコフスキー

指揮：飯守 泰次郎(関西フィル桂冠名誉指揮者)

チャイコフスキー：弦楽セレナーデ ハ長調 作品 48

チャイコフスキー：交響曲第5番 ホ短調 作品 64

※出演者、曲目、曲順など、内容が変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

6,500円(S) 5,000円(A) 3,500円(B) 2,500円(C) 1,000円(学生/25歳以下)

※チケット発売日 **調整中**

協賛：株式会社大塚製薬工場 協賛：高砂熱学工業株式会社
特別協賛：ダイキン工業株式会社

指揮：飯守 泰次郎



日本センチュリー交響楽団

問合せ 06-6848-3311

街に響く。心に届く。

会場：ザ・シンフォニーホール

チケット：定期 (A: 6,500円 B: 5,000円 C: 3,500円 D: 1,500円)
ハイドンマラソン (A: 5,000円 B: 4,000円)

第270回定期演奏会

心ひとつに、踊るリズムと情熱のサウンド

2023年2月17日(金)

19:00開演 18:00開場

指揮：久石 譲

合同演奏：九州交響楽団

久石 譲：Metaphysica (交響曲 第3番)

ストラヴィンスキー：バレエ音楽「春の祭典」

マルケス：Danzón 第2番



第271回定期演奏会

ウィーン〜アメリカを巡る旅、2つのワルツとともに

2023年3月9日(木)

19:00開演 18:00開場

指揮：川瀬賢太郎

ヴァイオリン：ティモシー・チューイ

J.シュトラウスII：皇帝円舞曲 作品 437

コルンゴルド：ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品 35

アイネム：フィラデルフィア交響曲 作品 28

ラヴェル：ラ・ヴァルス



ハイドンマラソン HM.29

ハイドンと楽団のプリンシパルたちが魅せるモーツァルト

2022年12月9日(金)

19:00開演 18:00開場

指揮：飯森範親

ヴァイオリン：荒井英治 ヴィオラ：須田祥子

ハイドン：交響曲 第59番イ長調 Hob. I:59 「火事」

モーツァルト：ヴァイオリンとヴィオラのための

協奏交響曲 変ホ長調 K. 364 (320d)

ハイドン：交響曲 第11番 変ホ長調 Hob. I:11



ハイドンマラソン HM.30

バッハの名曲、ピアノ協奏曲版とハイドン初期の作品群

2023年3月31日(金)

19:00開演 18:00開場

指揮：飯森範親 ピアノ：上原彩子

ハイドン：交響曲 第13番 二長調 Hob. I:13

J.S. バッハ：ピアノ協奏曲 第3番 二長調 BWV1054

ハイドン：交響曲 第21番イ長調 Hob. I:21

ハイドン：交響曲 第22番 変ホ長調

Hob. I:22 「哲学者」



お問合せ/センチュリーチケットサービス TEL 06-6848-3311(平日10:00~18:00) <https://www.century-orchestra.jp/ticket/>

兵庫芸術文化センター管弦楽団

問合せ 0798-68-0203

第138回定期演奏会

今こそPACと挑む、マーラーの大作

佐渡 裕 マラー7番

2023年1月13日(金)・14日(土)・15日(日)

指揮：芸術監督/佐渡 裕

マーラー：交響曲 第7番 ホ短調



第139回定期演奏会

偉大な作曲家達のつながりに想いを馳せる

ユベール・スターン ザ・グレイト

2023年2月17日(金)・18日(土)・19日(日)

指揮/ユベール・スターン ピアノ/児玉麻里

ハイドン：交響曲 第6番 二長調 Hob.I:6 「朝」

ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第3番 ホ短調 op.37

シュトラウス：交響曲 第8(9)番 ハ長調 D944 「ザ・グレイト」



第140回定期演奏会

音楽で詩情あふれるドラマを描く

準・メルクル ドヴォルザーク&シュトラウス

2023年3月24日(金)・25日(土)・26日(日)

指揮/準・メルクル チェロ/カミーユ・トマ

ドヴォルザーク：交響詩「水の精」 op.107, B.195

ドヴォルザーク：チェロ協奏曲 口短調 op.104, B.191

R. シュトラウス：交響詩「ツァラトウストラはかく語りき」

op.30, TrV 176



会場：兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール 各日15時開演

A4,000円/B3,000円/C2,000円/D1,000円(全席指定/税込)
【お問合せ先・チケットご予約】芸術文化センターチケットオフィス TEL 0798-68-0255

テレマン室内オーケストラ

問合せ 06-6345-1046

第293回定期演奏会 テレマンの街ハンブルクから中之島をウィーンに

日程 2023年1月13日(金) 18時30分開演

会場 大阪市中央公会堂中集會室 料金 ¥5,000(当日共)

演目 W.A. モーツァルト：交響曲 第40番 / F.J. ハイドン：交響曲 第8番「晩」ほか

出演 指揮：延原武春 テレマン室内オーケストラ Classic

第294回定期演奏会

日程 2023年1月20日(金) 18時開演

会場 東京文化会館小ホール 料金 ¥4,000(当日共)

演目 J.S. バッハ：無伴奏チェロ組曲全曲

出演 パロック・チェロ/チェロ・ピッコロ：鷺見敏

バッハからベートーヴェンまで
日本テレマン協会
since1963



広島交響楽団 定期演奏会 会場：広島文化学園 HBG ホール

第427回定期演奏会 プロ改組50周年記念定期

2023年1/20(金) 18:45 開演

指揮/下野竜也
青ひげ/宮本益光 ユディット/石橋栄実
吟遊詩人の前口上/山岸玲音
コターイ: 組曲「ハーリ・ヤノシュ」作品15
バルトーク: 歌劇「青ひげ公の城」作品11/Sz.48
(演奏会形式 原語上演・字幕入)



指揮: 下野竜也
© Naoya Yamaguchi



青ひげ 宮本益光



ユディット 石橋栄実



吟遊詩人の前口上
山岸玲音

第428回定期演奏会

2023年2/23(木・祝) 15:00 開演

指揮/秋山和慶 ピアノ/三浦謙司
ラフマニノフ: ピアノ協奏曲第3番 二短調作品30
ラフマニノフ: 交響曲第3番 一短調作品44



指揮: 秋山和慶



ピアノ 三浦謙司
© Jeremy Knowles

第429回定期演奏会

2023年3/4(土) 15:00 開演

指揮/鈴木雅明
モーツァルト: 歌劇「ドン・ジョヴァンニ」K.527 序曲
モーツァルト: 交響曲第29番 一長調 K.201 (186a)
チャイコフスキー: 交響曲第6番 一短調作品74「悲愴」



指揮: 鈴木雅明
© Marco Berggrve

第427回、第428回、第429回共通 チケット料金 S:5,300円 A:4,800円 B:4,300円 (学生:1,500円)

<http://hirokyo.or.jp/>

広島交響楽団 / アマービレフィルハーモニー管弦楽団 / 奈良フィルハーモニー管弦楽団 / 岡山フィルハーモニック管弦楽団 / 瀬戸フィルハーモニー交響楽団

アマービレフィルハーモニー管弦楽団

問合せ 072-648-5874

Horn
東本真奈 (当楽団員)

シューベルト/交響曲第7番「未完成」
ヒンデミット/ホルン協奏曲
ベートーヴェン/交響曲第5番「運命」

あなたの街「茨木市」のオーケストラ
アマービレフィルハーモニー管弦楽団
第12回 定期演奏会
2022年12月23日(金)
開演 19:00 (開場 18:00)

茨木市市民総合センター (クリエイティブセンター) センターホール

【お問い合わせ】 TEL: 072-648-5874 E-MAIL: contact@amabile-philharmonic.com
チケットぴあ Pコード「220-731」

Conductor
松岡究

全席指定席 (未就学児入場不可)
S席 5,000円
A席 4,000円
B席 3,500円

奈良フィルハーモニー管弦楽団

問合せ 0743-57-2235

2022 12/25(日)
奈良県文化会館・国際ホール
13:30 開演 (13:00開場)
入場料 (全席自由)
前売り 2,000円 / 当日 2,500円

モーツァルト
レクイエム
二短調 K.626
・モントボール組曲 Op.29-2 G.ホルスト
・アイヴェルティメント 一長調 K.136 W.A.モーツァルト

累計 聴/指揮
大原 未子 / ソプラノ 竹田 昌弘 / テノール
大垣 加代子 / アルト 大谷 圭介 / バリトン

第52回定期演奏会
2023 2/25(土)
奈良県文化会館・国際ホール
近鉄奈良駅東へ徒歩5分
13:30 開演 (13:00開場)
入場料 (全席自由)
前売り一般 4,000円 / 高校生以下 2,000円
当日一般 4,500円 / 高校生以下 2,500円

P. チャイコフスキー
・ヴァイオリン協奏曲二長調
・交響曲第4番

指揮 / 粟辻 聡
ヴァイオリン (17歳未満 イザイ) / ベンジャミン・ペイルマン

日本音楽財団楽器貸与者招へいプロジェクト 協力: 日本音楽財団 特別協力: 日本財団

奈良フィルハーモニー管弦楽団事務局 TEL 0743-57-2235 奈良県文化情報センター (文化会館内) TEL 0742-22-0200
e-mail: naraphil@leto.eonet.ne.jp

岡山フィルハーモニック管弦楽団

問合せ 086-234-7177

ニューイヤー コンサート2023
指揮/秋山和慶
舞台コーディネーター・ナビゲーター/榎木和歌
アイゼンシュタイン/清水良一
ロザリンド/柳くるみ
オルロフスキー公爵/小林久美子
ファルケ博士/萩原次己
アデーレ/森野美咲

2023年1月22日(日) 15:00 開演 岡山シンフォニーホール 大ホール

第1部: J・シュトラウス作曲 「春の声」(Sop.: 森野美咲) 他
第2部: J・シュトラウス作曲 喜歌劇「こうもり」ハイライト

S 5,500円 A 4,400円 B 3,300円 B+ 1,000円
*Bコースは19歳以下および25歳以下の学生対象です。

チケットの問合せ: 岡山シンフォニーホールチケットセンター TEL086-234-2010 • <http://www.okayama-symphonyhall.or.jp/okaphil/>

瀬戸フィルハーモニー交響楽団

問合せ 087-822-5540

瀬戸フィルハーモニー交響楽団 第38回定期演奏会
2023年1月22日(日)
13:20開場 14:00開演
レクザムホール (香川県県民ホール 大ホール)

指揮: 三ツ橋敬子 フルート: 上野由恵
メンデルスゾーン作曲 フィンガルの洞窟
イベール作曲 フルート協奏曲
メンデルスゾーン作曲 交響曲第4番 一長調「イタリア」

チケット 全席指定 S席 4,000円 A席 3,500円
学生 (高校生以下) 1,500円

主催: 公益社団法人瀬戸フィルハーモニー交響楽団 共催: 高松市

32回名曲・午後のオーケストラ



2023年2月26日(日)午後2時開演

アクロス福岡シンフォニーホール

指揮 ヴァレリー・ポリャンスキー ピアノ 小山 実稚恵

ベートーヴェン／

ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」

リムスキー=コルサコフ／

交響組曲「シェエラザード」作品35

【チケット料金】 S席：6,000円、A席：5,000円、B席：4,000円、
学生席：1,500円 車椅子席(限定4席) 4,000円チケットお問い合わせ：九響チケットサービス ☎ 092-823-0101 <http://www.kyukyo.or.jp>

長崎OMURA室内合奏団 (NOCE)

問合せ 0957-47-6537

長崎OMURA室内合奏団 定期演奏会 【チケット料金(全公演共通)】 大人 3,500円 学生 1,000円

♪第19回 長崎公演 12月16日(金)19:00開演 長崎市民会館・文化ホール

♪第34回 大村公演 12月17日(土)14:00開演 シーハットおおむら・さくらホール

松原勝也 (Vn)、中木健二 (Vc)、長崎 OMURA 室内合奏団

バッハ(松原勝也編曲) / 前奏曲 ト長調 BWV.568、フーガ ト短調 BWV.578

ストラヴィンスキー / プルチネルラ組曲

ブラームス / ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲 イ短調 作品102

☆大村公演は、テレマンユニオン
Member's TVU CHANNELにて、
有料ライブ配信いたします。

松原勝也



中木健二

問い合わせ 認定NPO法人長崎OMURA室内合奏団 TEL:0957-47-6537(平日9時~16時) Email:oce02@omurace.or.jp <http://www.omurace.or.jp>

編集後記

先日、文化庁の「アートキャラバン事業」の1公演として、海沿いの地方都市を訪れた。昼頃の特急電車で到着。駅近くで食事をしてから会場に向かおうと思ったものの、駅近くにはコンビニエンス・ストアが一軒。他には食堂やレストランは見当たらず、しかたなく歩き始め、橋を渡るとすぐに今日の目的地のホールが見えた。近代的な美しいホールである。駅から徒歩3分、非常に便利な立地。通り過ぎて店を探すが、全く目には入らない。シャッターのしまった商店が続き、開いているのは美容院・理髪店、洋品店が少し。15分ほどブラブラしてやっと見つけたレストランで食事をしながら調べてみた。この市はかつて平成の始めは人口7万人弱、今は6万人弱。30年で1万人減。この先

も減少は続きそうだ。ホールは1000人強を収容で、音響的には極めて優れている。私たちオーケストラは、首都圏や近畿圏などの大都市ばかりでなく、文化芸術を鑑賞する機会の少ない地方の皆さんの前で演奏することに喜びや、必要性を感じて日々地元以外でも活動している。この日のコンサートも満員にはならなかったものの、多くの皆さんに地元出身のオーケストラの楽団員をソリストに迎えた協奏曲とロマン派の交響曲を楽しんでいただけたと思う。

演奏旅行に行くと、各県ともこう言った町が多い。駅前はやや寂れて、お店のシャッターも閉まりがち。そこに素敵なホールがある。後で聞けば、駅の反対側や国道沿いに大きなショッピングモールがあるらしいが。日本全体が少子高齢化に加え、その少ない人口が更に大都市に流れていく。ホールの皆さんが一生懸命活動

を続けても、楽しい企画を計画しても、足元が揺らいている。

年が明けると文化庁が本格的?に京都へ移転する。本来、東京への一極集中の対策として、国の機関の地方への移転が議論されたはずが、移転は文化庁など一部のみ。何か言い訳に利用されただけのような。とても東京への集中の流れを止める力どころではない。地方都市の中には、トップと行政と市民が力を合わせ、医療機関などの確保に力を入れ、子育てなどがしやすく住みやすい環境を創ることに成功し、人口の減少を食い止めている例もある。国は減少する人口対策はもちろんの事、人の東京への集中、あるいは県庁所在地への集中に歯止めをかける政策を若い世代のアイデアをもって、今一度考えてもらいたいと思う。素敵なホールが寂れることなく、生き生きと活躍するために。(H.K)

指揮者の情報

京都市交響楽団の第14代 常任指揮者に沖澤のどかさんが就任

京都市交響楽団は令和5年4月より、広上淳一さんの後任に第14代常任指揮者として沖澤のどかさんの就任を発表した。沖澤さんは青森生まれ。東京藝術大学を卒業後、2018年に東京国際音楽コンクール〈指揮〉で優勝（特別賞、齋藤秀雄賞も受賞）。次の年2019年にはプザンソン指揮者コンクールで優勝。2020年～2022年はベルリン・フィルハーモニー・カラヤン・アカデミー奨学生。ベルリン・フィル音楽監督のキリル・ペトレンコのアシスタントを務めた。世界のオーケストラにデビューし続けている。この夏は「フィガロの結婚」を振りサイトウ・キネン・オーケストラにもデビューを果たしている。

コンサートマスターの情報

神奈川フィルのコンサートマスターに 大江 馨さんが就任

2023年4月より、神奈川フィルハーモニー管弦楽団は新しいコンサートマスターとして、大江 馨さんを迎えることを発表した。大江さんは2013年の日本音楽コンクール第1位、その他海外の多くのコンクールで入賞している。



山形交響楽団のコンサートマスターに 平澤海里さんが就任

2019年に山形交響楽団に入団。これまでアシスタント・コンサートマスターとして活躍。2022年11月より、コンサートマスターに就任。

事務局などの情報

東京交響楽団の新楽団長に 廣岡克隆さんが就任

東京交響楽団の新楽団長に大野順二さんの後任として、廣岡克隆（よししたか）さんが就任した。

廣岡さんは東京藝術大学卒業後、これまで東京交響楽団のアシスタント・コンサートマスターとして活躍してきた。

表彰・受賞の情報

富士山静岡交響楽団・専務理事の 宮澤敏夫さんが 和歌山県文化功労賞を受賞

富士山静岡交響楽団の専務理事宮澤敏夫

さんが令和4年度和歌山県文化功労賞を受賞した。この賞は文化の向上発展に貢献し、その功労が特に顕著である方に贈られるもの。

宮澤さんは大阪フィルの首席コントラバス奏者として活躍の後、同フィル事務局長に就任。この時代、地元和歌山で「和歌山音楽振興会」を主催しクラシック音楽の振興に大きく寄与した。その後、日本演奏連盟の事務局長を経て札幌交響楽団の事務局長として活躍。近年は富士山静岡交響楽団の専務理事として活躍している。

訃報

富士山静岡交響楽団の トランペット奏者の小島光博さん

富士山静岡交響楽団のトランペット奏者の小島光博さんがかねてより病氣療養中のところ10月21日に亡くなった。享年44。

フルート奏者の金 昌国さん

フルート奏者の金 昌国さんが7月15日に亡くなった。享年80。金昌国さんは東京芸大、大学院を修了。1967年日本音楽コンクール第1位、69年ジュネーブ国際音楽コンクール第2位（1位なし）。70年にはハノーバー国立歌劇場管弦楽団首席奏者に就任。86年には「アンサンブル of トウキョウ」を創設。東京藝術大学教授として、また多くのコンクールの審査員として、優れたフルート奏者の育成に尽力した。

作曲家の一柳 慧さん

世界的に高い評価を受けた作曲家の一柳慧さんが10月7日に亡くなった。享年89。一柳さんは高校時代2度にわたり毎日音楽コンクールで第1位。19歳で渡米、ジュリアード音楽院で学ぶ。ジョン・ケージに師事。その後前衛的な音楽家として世界的に活躍をつづけた。尾高賞は5度受賞。1985年フランス共和国芸術文化勲章を受章。1999年紫綬褒章、2005年旭日小綬章を受章、2008年文化功労者、2017日本芸術院賞及び恩賜賞を受賞。2018年には文化勲章を受章。

ピアニストのラルス・フォークトさん

ドイツのピアニストで指揮者でもあるラルス・フォークトさんが9月5日肝臓がんのため亡くなった。享年51。1990年リーズ国際コンクールで2位入賞。その後世界的に活躍し、日本のオーケストラとの共演も重ねた。この10月も来日し、新日本フィルハーモニー交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢と共演の予定だった。

【賛助会員】

●法人会員

オリックスグループ
NPO 音楽は平和を運ぶ
キックマン株式会社
コクヨ株式会社
株式会社 資生堂
公益財団法人日本製鉄文化財団
株式会社日本旅行
一般財団法人ヤマハ音楽振興会
ライオン株式会社
公益財団法人ローム ミュージック ファン
デーション

(五十音順)

*連盟の活動をご理解いただき支援して下さる法人あるいは個人の方へ賛助会員へのご入会をお願いします。

【加盟38団体】

〈正会員〉

札幌交響楽団
仙台フィルハーモニー管弦楽団
山形交響楽団
群馬交響楽団
NHK交響楽団
新日本フィルハーモニー交響楽団
東京交響楽団
東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団
東京都交響楽団
東京フィルハーモニー交響楽団
日本フィルハーモニー交響楽団
パシフィックフィルハーモニア東京
読売日本交響楽団
神奈川フィルハーモニー管弦楽団
オーケストラ・アンサンブル金沢
セントラル愛知交響楽団
名古屋フィルハーモニー交響楽団
京都市交響楽団
大阪交響楽団
大阪フィルハーモニー交響楽団
関西フィルハーモニー管弦楽団
日本センチュリー交響楽団
兵庫芸術文化センター管弦楽団
広島交響楽団
九州交響楽団

〈準会員〉

千葉交響楽団
藝大フィルハーモニア管弦楽団
東京ユニバーサル・フィルハーモニー管弦楽団
富士山静岡交響楽団
中部フィルハーモニー交響楽団
京都フィルハーモニー室内合奏団
アマビレフィルハーモニー管弦楽団
ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団
テレマン室内オーケストラ
奈良フィルハーモニー管弦楽団
岡山フィルハーモニック管弦楽団
瀬戸フィルハーモニー交響楽団
長崎 OMURA 室内合奏団



本誌は、環境に配慮して
FSC® 森林認証紙 (ECFパルプ)
を使用しています。



日本オーケストラ連盟ニュース第109号 2022年11月30日発行

発行所 ● 公益社団法人 日本オーケストラ連盟

編集・発行人 桑原 浩 〒130-0013 東京都墨田区錦糸1-2-1 アルカセントラル棟7F

Tel: 03-5610-7275 <http://www.orchestra.or.jp/>

印刷 ● 錦明印刷株式会社 制作 ● 音楽編集者倶楽部「カノン」/ 林僚子